

群馬大学医学部

2015

医学科・保健学科

● Medical Sciences

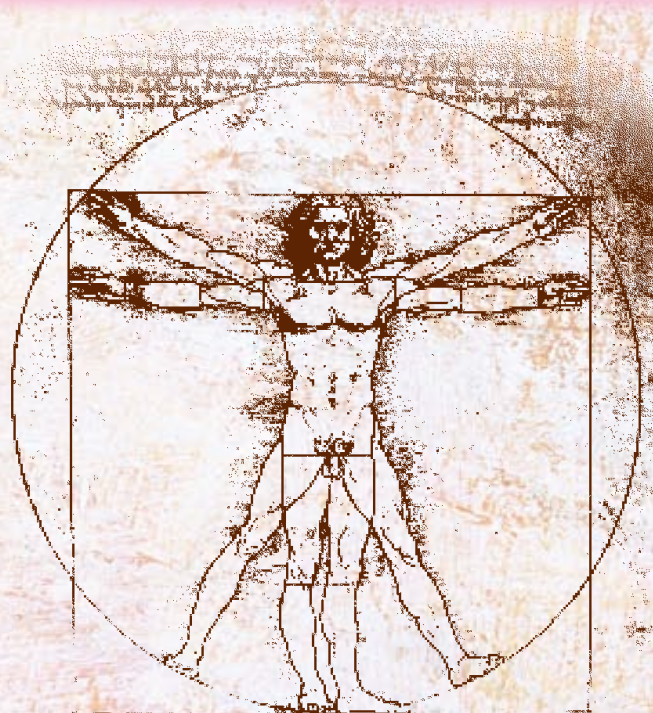
● Health Sciences

入学案内

人間性豊かな医療人の育成。



群馬県のマスコット「くんまちゃん」
26-100530



Handwritten text from a manuscript, likely related to the Vitruvian Man illustration, showing various measurements and proportions.

Contents

目次

医学部長メッセージ

学科長対談 2

TOPICS 医学科 6

保健学科 8

講座・専攻構成 10

医学科

医学科カリキュラム 12

医学科研究室 14

保健学科

保健学科カリキュラム 18

保健学科教員 20

私たちの大学生活 24

卒業生からのメッセージ 30

CLUB&COMMITTEE 32

施設紹介 34

キャンパス紹介 36

入学者受入方針・教育ポリシー 37

QUESTION&ANSWER 38

INFORMATION 40



History of Gunma University Faculty of Medicine

沿革

- 昭和18年 4月 ● 前橋医学専門学校設置
- 昭和23年 2月 ● 前橋医科大学設置
- 昭和24年 5月 ● 群馬大学医学部となる
- 昭和30年 7月 ● 群馬大学大学院医学研究科(博士課程)設置
- 平成 8年10月 ● 群馬大学医学部保健学科設置
- 平成13年 4月 ● 大学院医学研究科を大学院医学系研究科に改称し、保健学専攻(修士課程)設置
- 平成15年 4月 ● 大学院医学系研究科医科学専攻に講座設置
同保健学専攻博士(後期)課程設置
- 平成19年 4月 ● 大学院医学系研究科生命医科学専攻(修士課程)設置
- 平成23年 4月 ● 大学院保健学研究科設置

人間性豊かな医療人を育成します。



群馬大学医学部長

和泉 孝志

前橋市の市街地にある群馬大学の昭和キャンパスには、医学部（医学科と保健学科）、大学院医学系研究科、大学院保健学研究科、医学部附属病院、生体調節研究所、重粒子線医学センターなどがあります。

群馬大学医学部は北関東における医学・保健学教育と研究の中心として、医学科では多くの医師、医学研究者、医療行政者などを育成し、保健学科では看護師、保健師、助産師、臨床検査技師、細胞検査士、理学療法士、作業療法士などを育成してきました。医学部附属病院は、特定機能病院として先進医療を実践するとともに、地域医療の中核として社会に貢献しています。重粒子線医学センターでは、日本の大学に最初に設置された世界最先端のがん治療装置を用いて重粒子線治療が行われています。

医学科は、生命や人体の構造と機能を追求し、疾病の本態を解明し、それを克服するための方策を探究するとともに、優れた人間性をもつ医師や最先端の医学研究者を養成することを主な目的としています。保健学科は、総合的で先進的な保健学教育・研究を展開することを通して、保健医療の専門職として確固たる倫理観と豊かな人間性を持ち、社会的使命を果たすことのできる医療人の育成を目的としています。

医学部では、入学試験と学生教育の改善に力を入れ、多様な学生を迎える体制を整えてきました。入学後は、早期から医療の実際に触れ、医療従事者となる上で必要な知識、技術、心構えを早くから学生自身が身をもって体験できるように配慮しています。また、医療は多くの職種の人たちのチームワークによって成り立っています。一部の教育・実習のプログラム、さらに時間外の運動クラブや文化クラブの活動は、医学科学生と保健学科学生が共同で取り組んでいます。

現在、医学部・大学院・医学部附属病院を中心として、学部・大学院教育や研究者・専門医療人養成のために次のような大型プログラムが進行しています。

1) がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン「国際協力型がん臨床指導者養成拠点」、2) 臨床研究中核病院整備事業、3) 科学技術人材育成費補助金 テニユアトラック普及・定着事業「若手先端科学研究者の研究環境改革」、4) 博士課程教育リーディングプログラム「重粒子線医工学グローバルリーダー養成プログラム」、5) 基礎・臨床を両輪とした医学教育改革によるグローバルな医師養成「卒前・卒後一貫 MD - PhD コース」

医学部では、アメリカ合衆国、モンゴル、台湾、インドネシア、タイなどの大学との国際交流にも力を入れています。学生の間には先進国や途上国の医療情勢を体験し、外国の医学系の知人と情報を交換し国際感覚を培うことは、将来的にも有用で意義深いことです。

医学部学生は、様々な活動などを通して広い視野のもとに医学・医療を学び、人間性豊かな医師・医療人、また教育者・研究者に成長することが期待されています。



対 学科長 談

群馬大学医学部の
今日から明日へ



医学科長

和泉 孝志

「研究マインドを発揮する医師」と 「全人的治療を獲得した医療人」の育成を目指して

それぞれの学科の特徴

和泉 群馬大学医学部医学科の特徴は、より良き医師、医療人を目指し、教育をするところではありますけれども、それだけではなく、世界最先端の医学研究、医療の開発を行っています。附属病院では地域の皆さんに対し、高度先進医療をはじめ地域医療を提供しています。それ以外に昭和キャンパスの重粒子線医学センターは、大学としては日本でただひとつの重粒子線治療の施設であり、がん治療の開発をしているという特徴があります。

医学教育の特徴としては、早期に医療現場を体験してもらうカリキュラムと、チュートリアル授業^{※1}をカリキュラムの中につく用意をしているのが特徴だと思います。

渡邊 保健学科の特徴は、看護学、検査技術科学、理学療法学、作業療法学の四つの専攻があり、それぞれが国家試験の資格職種で、それぞれに独自の教育を行っていることと、四つの違う職種があるということ

から、人を全体的に診るという全人的な考え方をして医療に取り組もうというところで、皆が集まるチームに教育の重点を置いていることが特徴だと思います。

本来は指定科目に入っていない科目でも、きちんと必修科目にし、チームワークでの講義と実習を組み立てています。その教育は、医学科の先生や学生にも大変多くの協力と理解を得ており、医学科と保健学科の学生と一緒になったカリキュラムが特徴です。

和泉 医学科の教育でも、人を全体的に診る点は、保健学科に通ずるところです。一方、医学は非常に勢いで進歩していますし、医療技術も日々改良・改善が重ねられておりますので、大学で学んだことは卒業して何年か経つと、その場で役に立たないという可能性があると思います。

では「大学で何を学ぶか」というと、医学・医療の背景にあるものの考え方、堅く言えば学問ということになりますが、それを学ぶ姿勢を身につけてほしいということが一番です。そのためには、学問というのはど

のように作られてきて、今後どのような方向に向かおうとしているかを知る必要があります、そのためにも研究にふれるということも大変大事なことだと思います。

渡邊 保健学科では、正直なところ、保健学という学問がまだ確立されていないので、そのためどの方向に行くかということを現在試行錯誤しているところです。まずはキーワードを「地域」と「国際」に持っていきたい。たとえば、それをカリキュラムに入れていきたいという思いがあります。

その中で、特に地域については今、大学院と学部と両方にわたり、地域に出て行くような形のカリキュラムを組んでいます。これを必修科目にし、地域に出て行くようなカリキュラムを作れたらと思っています。いかに医療を地域のニーズに応えたものとして定着させるかということを進めていき、それが医学部と一緒に作る医学科と保健学科の役割かというふうに考えています。

和泉 地域医療に関しましては、まず現在の医師不足・偏在に対応する措置として、



保健学科長

渡邊 秀臣

医学科の入学定員が何年かにわたって少しずつ増やされてきて、現在は編入学生を含めると123人の入学定員があります。そのうちの18人^{注2}は、群馬県が奨学金を出す「地域医療枠」^{注3}の学生です。

地域医療枠の学生には、地域医療を学ぶプログラムが用意されています。これは県と県医師会、病院協会と一緒に作っているプログラムです。必ずしも地域医療枠の学生に限らず、一般の学生にも開かれたプログラムですし、地域医療枠の学生だけでなく、地域医療の現場を知ってもらうカリキュラムが、たとえば2年生は「病院実習」という形で行われます。また、従来から行われていた保健所等での実習もあります。そういうことから、地域医療枠に限らず地域医療の現場を知ることが医学科のカリキュラムの中で行われています。

キャンパスが一緒

和泉 本学の医学部の特徴として、同じ学部には二つの学科があり、しかも校舎は同じキャンパスにあり非常に近い。また実習の

場も共通であるほか、教員の間でお互いのカリキュラムを教え合ったり、共通のカリキュラムもあります。そういう意味で連携を深めやすい関係にあります。

また、医師はコーディネーターの役目が求められますが、医療は医師だけでできるものではなく、いろいろな専門的職種の医療人たちの協力を得ながら、チーム医療を行っていかねばならないので、学生時代からチーム医療の考え方を学び、現場を知ってほしい。それが必ずしもうまくいっていないこともありますけれども、どのようにすればチーム医療が円滑に動くかということを常に問題意識として持ってもらい、どのような職種の人がどのような専門性を持ち医療を担っているのかということ、まず知ることが大変重要だと考えています。

渡邊 カリキュラムの連携ということも大変重要なのですが、私たちが関わっていない、課外授業というか、特にクラブ、サークル系の活動で、多くが医学部として一緒にやっているんです。そうした交流により、勉強以外のいろいろなことが学べる。キャン

パスが一緒ということが大きいのではないかと、私は最近すごく思います。

和泉 そうですね。患者さんを治療していくにあたり、先ほど渡邊先生は全人的医療という立場を説明されておりました。やはり、病気を持っておられる方は病気で苦しんでいるだけではなく、病気を持つゆえに社会的、経済的、人間関係などいろいろな悩みが発生することがあります。それを理解するには病気や治療方法を学べばいいだけではなく、患者さんがどういうことで悩むのか、また悩む可能性があることを知らないといけません。

そのために、医師だけではなくすべての医療人は、高いレベルの人間性を持たなければいけない。それを学生の間に学んでほしいと思います。医師や看護師といった、純粋培養の世界だけではなく、互いの友達同士や専門の職業人を目指す違うコースの学生、また広く社会に出て、実際に悩んでいる患者さんの声を聞くなど、いろいろな社会を知ること大事です。

その中で本学医学部の特徴としては、同じキャンパスに医学科と保健学科の学生がいて、その交流が非常にしやすい。しかも、その関係がクラブ活動、課外活動を通じて行われやすいということは大きな特徴だと思います。

研究環境について

和泉 研究について言えることは、医学・医療は常に進歩を続けるものなので、医療人はすべて卒業した後も勉強を続けなくてはならない。そのために一番いいのは、研究にふれ体験することです。それだけでなく、将来の医学・保健学を作っていく研究者、教育者という道も大学院医学系研究科と大学院保健学研究科、さらに上の研究のコースも開かれています。そこに入って学問を拓いていく、またはそれを教えていく研究者、教育者という立場になる道も拓かれていることを、高校生の皆さんにも知ってもらえればと思います。

渡邊 研究というと、医学科との大きな違いは、保健学科には卒業研究があり、看護学や検査技術など各専攻によって違うので

^{注1}：少人数でディスカッションをしながら、ただ教わる一方だけでなく、学生のほうから参加していく、参加型の少人数教育です。

^{注2}：入学定員・地域医療枠の学生数は平成26年4月入学者の学生数です。平成27年度以降の定員数等は、本学ホームページや入学選抜に関する要項等でご確認ください。

^{注3}：「地域医療枠」は群馬県での将来の医療を担うという強い意志を持ち、群馬県からの修学資金貸与を希望する場合の出願区分です。これに対し、医師や医学研究者等を指す一般的な選抜枠で、群馬県からの修学資金貸与を希望しない場合の出願区分が「一般枠」になります。「地域医療枠」で出願し、合格者判定の結果、成績が募集人員内にあると判定さ

れ、成績順に決められる修学資金貸与と予定者よりも下位である場合は、一般枠として合格となります。なお、「地域医療枠」「一般枠」のいずれで出願しても合格者の判定は同一の基準で実施します。「地域医療枠」については6ページの「入学定員増と地域医療枠」もご参照ください。



医学科長 和泉 孝志

昭和52年 東京大学医学部卒業
東京大学医学部附属病院医員
昭和59年 東京大学医学部 研究員
昭和62年 スウェーデン カロリンスカ研究所 客員研究員
平成 2年 東京大学医学部 研究員
平成 3年 東京大学医学部 助手
平成 9年 東京大学大学院医学系研究科 助手
平成10年 東京大学大学院医学系研究科 助教授
平成12年 群馬大学医学部 教授
平成15年 群馬大学大学院医学系研究科 教授
平成18年 群馬大学生体調節研究所
附属生体情報ゲノムリソースセンター長
平成21年 群馬大学副学長
群馬大学理事(研究・国際交流担当)
群馬大学経営協議会委員
群馬大学教育研究評議会評議員
群馬大学研究・産学連携戦略推進機構長
群馬大学重粒子線医学推進機構長
平成23年 群馬大学医学部長
群馬大学大学院医学系研究科長
医学博士

すが、1年間をかけて一つのテーマを取り上げるというシステムがあります。また、大学院に進むという道があり、たとえば地域を研究するのであれば、学生のうちから地域に関わっていると大学院に行けるといような、ある意味で学部と大学院の一貫的な研究体制というようなものが望ましいし、これから作っていきたいと考えています。おそらく、そういう形を取っていくと、学生のうちから研究というものを、もう少し社会のニーズに応える研究に広げることができるかと思います。

和泉 医学科では、1年次に「医学研究発表チュートリアル」という授業で、研究テーマについて発表し、2年次には「選択基礎医学実習」で基礎の研究室に配属になり、4週間研究に従事します。また、MD-PhDコースというプログラムがあり3年次から入ることができます。このコースでは、基礎医学の教室において研究を行ったり、大学院授業を先取りして学んだりすることが

できますが、毎年多くの学生が参加しています。卒前・卒後一貫 MD-PhD コースでは、卒業後直ちに基礎系大学院に入る学生に奨学金支給などの支援を行っています。

保健学科と少し違うのは、必ずしも社会のニーズに対応する研究ではなく、生命現象そのものを解析・解明していく基礎医学的研究を重視している点です。将来、臨床に入れば臨床的な研究や、苦しんでいる患者さんを目の前にして、その患者さんを治すための臨床に取り組まざるを得ないので、その背景にある「生命現象を解明するための基礎医学的な知識」が必要と考えています。必ずしも卒業研究の形でまとめる必要はなく、基礎医学的な研究を4年次までに身につけてもらうというカリキュラムになっています。

また、現在、群馬大学医学部は、日本国内の大学の医学部の中では高い研究水準を維持していると思いますが、全世界的に見ると日本の医学研究は少し低迷しています。これは医療制度、研修必修化などいろいろな問題があることと、医師の専門医・認定医志向により、学問というより自分の専門性に少し目がいつてしまうところがあります。専門性はもちろん必要なのですが、やはり背景には学問を学んでいった上の専門性だと思います。そこが少し軽視されている傾向があるので、今まで述べたように「研究マインドを持った医師・医療人になってほしい」という思いを少し強くしています。全国の医学部もその方向に行っていると思いますが、群馬大学の医学部はその先駆けとしていろいろな取り組みを行い、研究マインドを育成・養成するためのプログラムを実行していこうと考えています。

渡邊 保健学科は、研究自体とするとまだまだレベルが高いとは思いません。自分のやりたいことをやって何かに書いて終わりということではなく、きちんと国際社会から評価を受けるということまで持つていくような体制を作らなければならないと思います。国際雑誌などで、どのような討論が行われ、書かれ、報告されているのかを知ることにより、保健学の研究の基礎が見つかるのではないかと考えています。

重粒子線医学センターを軸に

和泉 重粒子線というのは放射線の一つで、

放射線によるがん治療を行うわけですが、欧米諸国に比べ、日本はがん放射線治療の普及が遅れています。一つひとつの技術はすばらしく、最先端の技術を持っているのですが、国民全体のがん治療という点から見ると、放射線治療が必ずしも普及していない。また、国民の理解も得られていないということがあります。

群馬大学は放射線科を中心に、腫瘍放射線専門医を非常に多く輩出してきた長い伝統と歴史があり、放射線治療を日本全国に広めていくという使命を担っています。平成22年3月から、重粒子線医学センターにおいて重粒子線によるがん治療が実際に始まり、放射線治療の中でもさらに最先端の重粒子線治療という、大きな武器を手に入れたということになります。

日本では、群馬大学以外には放射線医学総合研究所と兵庫県立粒子線医療センターで、重粒子線によるがん治療を行っています。ところが、当大学では医学部の総合病院の中で重粒子線治療ができます。たとえば化学療法でもいろいろな療法がありますが、それとの組み合わせ、また手術を含めた外科療法との組み合わせにより、新しい重粒子線治療を開発できる非常に有利な立場にあります。従来なかった新しいがん治療ができるのではないかと期待しています。そのために、若いがん治療医が育って、新しい治療法を開発し、たくさんのお患者さんを治してほしいと思います。

また、がん治療全体の中では必ずしも手術療法や放射線治療に適應できる患者さんよりも、むしろできない方のほうが多いかも知れません。すると、看護師を中心とした緩和ケアが非常に重要になっていくと思います。大学院医学系研究科と大学院保健学研究科では、平成24年度から「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」の取り組みを一緒に行っており、がん医療に関わる高度専門職業人の養成を行っています。がんに関わる医師だけではなく、「がん看護専門看護師」のように、広い意味での医療人を育成するプランが群馬大学医学部では採択されていますし、医師、看護師、病院の放射線技師など、医学部全体でのがんに携わる専門的な医療人の育成に取り組んでいます。

渡邊 おそらく、保健学科のほうで一番携

われるのは「がん看護専門看護師」で、がん患者さんが困っていることを扱う高度専門職です。本学の専門看護師養成コースを修了したがん看護専門看護師が重粒子線医学センターで活躍しています。また、リハビリテーション関連の人たちは重粒子線治療後のケアにきちんと対応するという場面でも、保健学科はお役に立てることがあるのではないかと思います。

和泉 がん患者さんに対する理学療法、作業療法の開発の余地はかなりあります。いろいろながん患者さんが治療を求めて群馬大学に集まって来てくだされば、そのような方に対して重粒子線治療だけではなく、生活の質の改善という面でもケアができる態勢を取っていくことができるようになると思います。

群馬大学医学部が求める人材とは

和泉 先ほどの繰り返しになりますが、研究マインドを持った医師を育てていきたいということと、地域に貢献する医師を育てることが求められています。これらは必ずしも相反するものではなく、地域に出て最先端の医療を提供できるような医師になってもらわないといけないということになります。

渡邊 保健学科では、地域密着ということが一番に持っていきたいというのが、おそらく教員や学生たちの本当の考えだと思います。しかし、同時に国際的な視野も大事です。「地域の住民にはこういう問題があるから、じゃあこうしよう」と考えているとき、心と世界を見ると同じことが起こっているんです。逆に、発展途上国の人たちが困っていることが地域にもあります。要するに地域を見るためにも、国際的な視野を養うことは必要なことだと思います。

和泉 国際的視野を持つことが、地域のより深い理解につながるということですね。

渡邊 そうです。外国に行って活躍してくれる人はもちろんですが、外国に行き、その問題を見て来て、地域に出て行く。地域の山奥の診療所に行って、もちろん医師がいればこしたことはないのですが、医師を支える人が何人かいれば、きちんと診療はできていくと思います。大きな病院の診療を支えるのはもちろんですけども、「自分たちは地域で何の役に立つか」というこ

とを知りようなカリキュラムができればいいと考えています。

和泉 全体的に言えることは、医学・保健学を勉強することや医療技術を学ぶことも大事なだけでなく、広い意味で、高いレベルの人間性を学生時代に身につけてほしいということと、授業に出るだけ、友達とクラブ活動をするだけではなく、広く人間性、社会性を身につけてほしいということです。それができるのはある程度時間に余裕がある大学時代だと思います。それをカリキュラムの上でサポートすることはなかなか難しいのですが、できるだけ社会に出て、いろいろな人間関係ができるような場を提供することも重要だと思います。

渡邊 そういうことを考えたとき、保健学科として入ってほしい人には、保健学以外の本にも興味を持って欲しいです。経済学や政治学等、広い視野を持つためにたくさんの本を読んでくれればいいと思います。

和泉 医学の勉強では、膨大な医学知識・医療技術を学ばなければいけないので、もちろんそれを身につけるための基礎学力というのは、最低限持っていなければいけないと思います。それを前提に、「病気の人を助けてあげたい」「医療人になりたい」という強い意志を持った人に来てほしいです。それは豊かな人間性であったり、幅広い社会性であったりするのですが、一番大事なのは、まず人の苦しみをわかってあげられる、患者さんのことを理解できる共鳴力、共感力などの、人として基本的な力だと思います。やさしさ、人の苦しみが分かる能力と言ってもいいかもしれません。

渡邊 基本的には自分の選んだ職種、目指す職種に絶対になりたいという意志、「私はこういう看護師になりたい」とか「こういう理学療法士になりたい」という強い意志を持っていほしいし、就いた職種に関しては「自分はこの職種になった」という自負を持ってほしいと思います。

和泉 一言で言えば、使命感や責任感となると思うのですが、医療人としてそれが持てる人。最初入学する時からは無理ですが、医療人としての使命感や責任感を持つことのできる人に入ってきてほしいと思います。

群馬大学は、北関東の医療の中心的な役割を担っており、また北関東の国立大学で唯一の医学部ということもあって、地域から期待されています。活躍できる医療圏は



保健学科長 渡邊 秀臣

昭和54年 群馬大学医学部医学科卒業
群馬大学医学部附属病院医員
昭和63年 米国ミンガン癌財団研究所 科学研究者
平成 3年 群馬大学医学部附属病院助手
平成 9年 群馬大学医学部附属病院講師
平成14年 群馬大学医学部助教授
平成15年 群馬大学大学院医学系研究科助教授
平成17年 群馬大学医学部保健学科教授
平成20年 群馬大学教育・学生支援機構大学教育センター教育方法企画部長
平成21年 群馬大学医学部保健学科長、副医学部長
群馬大学大学院医学系研究科保健学専攻長
群馬大学教育研究評議会評議員
平成23年 群馬大学大学院保健学研究科長
医学博士

非常に広大であるという大きな特徴があります。その特徴を活かし、学問的にも高い水準を保ち続けていますので、全国・世界レベルの医療人、学者、教育者、研究者が育ってくれるものと期待しています。

渡邊 私としては、次の大学院にも目を向けてもらいたい。大学に入学するときにはなかなかそこまで見ていないでしょうけれども、自分の分野を「学問としてきちっと進めていくんだ」という意欲のある人を育てていきたいと思っています。

医学科

群馬大学医学部は、学生の教育、最新の医療開発、診療など、常に多角的に今の医療界を見据えています。そのいくつかを紹介します。

TOPIC

1

重粒子線治療

世界最先端のがん治療装置 <http://heavy-ion.showa.gunma-u.ac.jp/>

2010年3月に国内の大学では初めて群馬大学で始まり、国内外から大きな注目を集めている最先端の治療法が、がんを「切らずに治す」重粒子線治療です。

重粒子線治療の特徴は、①炭素イオン等を高速に加速して病巣を狙うため、がんに対する線量集中性が極めて優れていること、②一般に使われるX線やγ線に比べてがん細胞を殺傷する力が強いこと、③照射の精度が高く、がん細胞周囲の健常臓器の機能を温存できることなどが挙げられます。

ここ群馬大学で世界最先端のがん治療である重粒子線治療がスタートしたのは、放射線治療研究が全国でも屈指のレベルにあり人材が豊かだったことが大きな要因の一つです。

現在、日本原子力研究開発機構・高崎量子応用研究所、宇宙航空研究開発機構

とも協力して、1mm程度の微小病変に対して高精度照射を行う革新的な治療システムの研究開発を進めています。

同時に、米国のマサチューセッツ総合病院（ハーバード大学医学部の教育病院）やメイヨークリニック、ドイツ国立重イオン研究所と学術交流協定を結ぶなど国際的研究拠点の形成にも努めています。また、国際原子力機関（IAEA）のアジア地域保健医療領域の事務局も設置されるなど、放射線治療のトップランナーとして国際貢献を推進しています。

さらに、群馬大学大学院医学系研究科では、文部科学省の「博士課程教育リーディングプログラム」に「重粒子線医工学グローバルリーダー養成プログラム：平成23～29年度」が採択されました。本学位プログラムでは、各専門分野の領域を超えて活躍できる放射線腫瘍医、放



射線生物学者、医学物理士、加速器物理学の専門家などの優れたグローバルリーダーを養成します。このために、重粒子線医学・生物学の基礎に加えて、重粒子線先端臨床研究や高度医療機器の開発・運用技術の開発研究を教育する医学・工学融合型のリーディングプログラム「重粒子線医工連携コース」を大学院に創設するなどの新しい試みを積極的に導入し、国際的な指導者となる優れた人材を養成しています。

TOPIC

2

入学定員増と地域医療枠

地域医療貢献を目指す

医学科は、多様な医師・医療関係者、医学研究者を育成するため、入学試験制度の改革を積極的に行ってきました。入学定員は平成21年度入試から3回増員され、現在は123名となっています。平成25年度入試では一般入試後期日程が廃止され、各試験の募集人員に一部変更がありました（推薦入試35名、一般入試前期日程73名、第2年次編入学15名）。

平成21年度に創設された地域医療枠も、拡充されて18名になりました。地域医療枠は、群馬県と協力して、県の医療を担う医師を養成し、県内の医師不足解消に貢献することを目的としたものです。この制度では学生に月額15万円の修学資金が貸与され、卒業後、群馬大学医学部附属病院をはじめ群馬県内の指定病院において一定期間診療に従事するこ

とで修学資金の返還が免除されます。その際に、リストアップされている基幹病院の中から勤務する病院を選択できる特徴があります。また、返還免除に必要な診療従事期間を、出産・育児や県外医学

研修（海外留学を含む）によって中断することもできます。詳細については、学生募集要項の「群馬県緊急医師確保修学資金貸与制度について」をご覧ください。



TOPIC 3

チューター制度を活用した臨床実習支援 より実践的な学生支援を目指す



医学科では入学学生全員に対してそれぞれチューターとして教授を指定し、卒業までいろいろな問題についてきめ細かい個人指導を行っています。しかし、4年次後半からの診療参加型の臨床実習が始まると臨床実習を行う上での新しい悩みや問題がでてきます。

そこで臨床実習に関連した指導を行うため、平成20年度よりCS（クラークシップ）チューター制度を発足しました。担当は従来のチューターに加えて、臨床実

習で実際の指導医となる准教授、講師層を中心に人員を配置し、さまざまな相談に応じたり、あるいは学外実習施設選定の助言をしたり、できるだけ実践的な学生支援を目指しています。

この制度は、概ね双方に好評で、「教授のチューターより親近感があり、細かい点も気軽に相談できて良い」といった意見も聞かれます。今後も、学生がより充実した臨床実習を行えるように支援していきます。

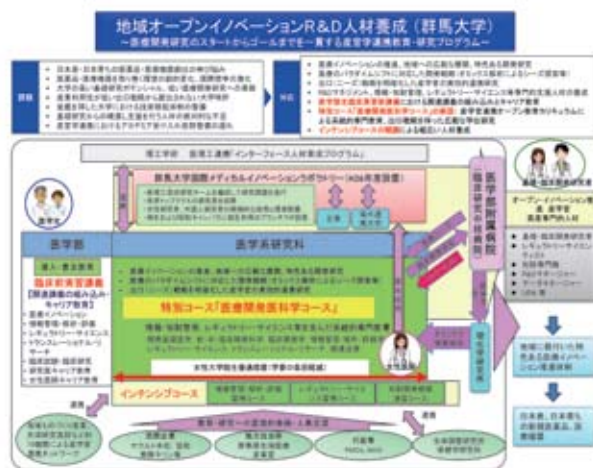
TOPIC 4

未来医療研究人材養成拠点形成事業 「地域オープンイノベーションR&D人材養成」事業

医療イノベーションを実現する高度専門医師、研究者、支援人材の養成 <http://mirai.showa.gunma-u.ac.jp/>

よりよい医療を提供することは医師の責務です。そのためには、より効果的で、さらに安全、しかもより負担の少ない医療を開発していく必要があります。本事業は平成25年度に採択・開始された文部科学省「未来医療研究人材養成拠点事業」のひとつで、画期的な医療、医薬、医療機器の開発とこれに関わる高度専門医師、研究者、R&Dマネジメント等の研究支援の専門人材の養成を目的とする群馬大学独自の教育プロジェクトです。国内外の注目を集めつつ、医学部卒業後に進学する大学院医学系研究科には、特別コース「医療開発医科学コース」が設置され、医学部では、臨床開発研究の導入教育がすでに開始さ

れています。近年、ゲノム医学の急速な進化、それに伴う技術革新により、医療開発研究は質量ともにかつてない広がりを見せています。未来へ向け、さらに幅広く活躍する有能な医師、次世代型医師の育成をめざし、国際的な連携・協力体制を構築しつつ、医療イノベーションを実現、リードする専門人材の養成が進められています。



TOPIC 5

卒前・卒後一貫MD-PhDコース

基礎医学研究者・教育者、法医解剖医養成 <http://md-phd.showa.gunma-u.ac.jp/>

医師には臨床医以外に、研究、法医解剖、病理解剖など臨床に直接関わらない医師がいます。また、医学教育や、地域の医療行政に携わる医師も必要です。しかし、医学科卒業生の多くは臨床医を希望し、これらの基礎医学分野に進む医師は減少傾向です。そこで群馬大学では、入学直後から基礎研究の体験実習や基礎医学研究室配属を行い、基礎医学への興味も持たせるような教育をおこなっています。また、MD-PhDコース（医師と医学博士を並行して目指すコース）を設置し、希望する研究室での研究に加え大学院講義の一部も受講可能としています。現在、90名以上の学生がMD-PhDコースを選択し、忙しい講義の合間を縫って各研究室で研究活動に励んでいます。

これらの試みに加え、平成24年度に「卒前・卒後一貫MD-PhDコース」を整備しました。一貫コース希望者は、大学院入学試験の一部を受験し、合格すればプレ履修生となります。学部学生時代に受講した大学院講義・演習は卒後大学院に入学した際、正規の大学院単位として認定します。また、卒後は臨床研修と並行して基礎系研究室にて研究を継続し、学位取得後に大学の教員として採用する予定です。法医解剖医志望者は認定医

資格取得を目指すことができます。本プログラムを通じ、基礎研究医や法医解剖医を目指す学生の育成を図っています。



保健学科

群馬大学医学部は、発展途上の分野にも積極的に取り組み、深く掘り下げるとともにより実践的なプログラムを行っています。

TOPIC 1 多職種連携教育

保健人材育成部門で国内唯一のWHO協力センターの指定を受けた群馬大学で、さらに教育の充実を目指す

保健学科は、看護学、検査技術科学、理学療法学、作業療法学の4専攻で構成されています。全人的医療を担う高度医療人の養成を教育理念の基本におき、各専攻の専門教育と共に、チーム医療教育/多職種連携教育に力を注いできました。「チームワーク実習」はこの中核となる科目で、学内外約20施設の協力を得て保健学科と医学科の学生が参加して実習が行われます。

多職種連携教育ではWHO（世界保健機関）をはじめ国内外の機関や大学とも連携して学生教育の向上を目指してきましたが、これまでの実績が認められ、2013年には

群馬大学がWHO協力センターに指定されました。保健人材育成部門で国内唯一のWHO協力センターです。実行組織となる「多職種連携教育研究研修センター」が開設され、多職種連携教育の研究と研修を行っています。WHOとの連携を通して学生教育のさらなる向上を目指しています。

2010年には、多職種連携教育を学ぶ学生組織としてSIPECが設立され、学内での勉強会や講演会への参加などの活動の他、WHO本部や西太平洋事務局への訪問、国際学会での発表などを行ってきました。2014年度も6月にピッツバーグで開催さ

れる国際学会でSIPECの学生がこれまでの学習成果を発表しました。これらの活動を通して、全人的医療を担い国際的に活躍できる医療人を育成しています。



TOPIC 2 地域保健学リーダー

地域活動と教育との一体化を目指した大学院教育プログラム

大学院保健学研究科では設置当初より昼夜開講等社会人学生に配慮した教育を実施してきました。その結果、現在、博士前期課程の約6割、後期課程の約8割が主に保健医療機関で働く社会人学生という特徴があります。そこで、これまでの教育を発展させ、さらなる地域活動と教育との一体化を目指した新しい大学院教育プログラム「地域・大学院循環型保健学リーダーの育成」を構築し、平成19年から3年間文部科学省大学院教育改革支援プログラム（大学院GP）の支援を受けました。平成22

年度以降も教育プログラムとして継続しています。具体的には、地域の保健医療従事者を社会人学生として受け入れ、所属機関における研究課題を、所属機関と大学との共同で「地域保健学研究プロジェクト」として遂行します。学生はこの課程を通して、研究能力やリーダーとしての能力を体験的に修得し、大学院修了後は「地域保健学リーダー」として、地域保健医療活動の推進や、大学との協働の促進における役割を果たすことが期待されます。

平成25年度までに31名の学生が本ブ

ジェクトの研究遂行者として認定を受け、地域社会で活躍しています。



TOPIC 3 地域交流教育 —「生活の質」を学ぶ新しい保健学教育— 健康長寿のまちづくりを目指す

少子高齢化と人口減少によって地域社会の姿は急激に変わりつつあります。「地域交流教育」は、地域社会に暮らす高齢者や障害者から直接話を聞いたり、彼らを支える保健・医療・福祉の現場に出かけたりする教育プログラムです。これらの交流を通して、地域に

暮らす人々の「生活の質」への理解を深め、地域社会の変化に対応した柔軟な考え方で「住み慣れた地域でよりよく暮らす」ことを支援できる人材を育成します。

「地域交流教育」は授業科目の名称ではありません。群馬大学が築いてきた豊富な地域

活動を教育の機会として活用しようとする授業方法の工夫を指す言葉です。この教育プログラムによって「健康長寿のまちづくり」を担う専門職が誕生することが期待されます。



専門職養成プログラムについて(大学院)

専門看護師(Certified Nurse Specialist)

臨床研究コーディネーター (Clinical Research Coordinator)

高度化・専門分化が進む医療現場において、質の高い看護ケアを効率よく提供する専門看護師(CNS)の資格認定制度があり、資格をもつ専門看護師が病院などで活躍しています。CNSになるには特定の専門看護分野の実務経験と大学院博士前期課程での学修が必要です。本学では、がん看護・慢性看護と老年看護分野の専門看護師を養成する教育課程が認可され、CNSコースとして大学院教育を行っています。また、母性看護分野教育を開始しています。さらに、がん看護・老年看護分野は、専門看護師の発展型であるケアとキュアの融合を目指す高度実践専門看護師教育課程(38単位)として新たに認可され教育を開始しました。CNSコース修了生は日本看護協会による資格認定審査に合格してCNSの資格を得ることができます。平成25年4月までに資格認定審査に本学の修了生23名(がん看護16名、老年看護4名、慢性疾患看護3名)が受験して全員合格しました。がん看護コースはがんプロフェッショナル養成基盤推進プラン「国際協力型がん臨床指導者養成拠点」として行っています。

新しい治療法や予防法を確立するための

科学的根拠は、臨床試験をはじめとした臨床研究から得られます。臨床研究の拠点となっている世界の研究医療機関では、臨床研究コーディネーター(CRC)やデータマネージャー(DM)と呼ばれる専門職が活躍して、臨床研究や疫学研究が進められています。質の高い研究を行うには、これら専門職のなかでも高度な知識やスキルを身につけた人材を欠かすことができません。しかし、わが国ではこれらの指導的人材を育てられる教育機関はごくわずかです。群馬大学大学院保健学研究科では、平成13

年の大学院設置当初から、臨床研究専門職の管理的指導者養成のための講義や演習を行ってきました。また、附属病院臨床試験部と連携して実践的な演習を含む「CRC管理者養成コース」を開講しています。コース履修者には、「臨床研究プロフェッショナル(臨プロ)」の称号が与えられます。



国際交流

国際感覚の向上と国際社会への貢献

保健学科は国際社会で活躍できる人材の育成を目指し、教員及び学生の国際交流を行うとともに、国際社会に貢献するために国際協力を行っています。ワシントン大学、ピュージェット・サウンド大学など米国の大学や、ニカラグア国立自治大学マナグア校及びモンゴル国立健康科学大学とも交流し、相互の訪問を行っています。学生は、留学生と一緒に学ぶ中で国際感覚や、国際社会で必要とされるコミュニケーション能

力を養うとともに、留学生にとっては将来の母国の発展に役立つ知識や技術を得る機会となります。在学中から積極的に開発途上国を訪れ、卒業数年後に国際協力を行う学生も多く存在します。また、モンゴルでの理学療法士養成のための教育支援など大学が行う国際協力として注目され、高く評価されています。このように、保健学科全体で国際交流・国際協力に取り組んでいます。

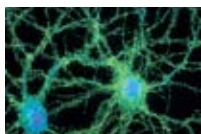




医学科は生命や人体の構造と機能を追求し、疾病の本態を解明し、それを克服するための方策を探求するとともに、優れた医師、真摯な医学研究者を養成することを目的としています。

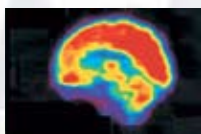
講座構成

脳神経病態制御学講座 Medical Neuroscience



脳神経再生医学、病態病理学、脳神経内科学、脳神経外科学、眼科学分野からなり、基礎・臨床融合型研究を展開しています。講座内の研究分野が協力し、難治性神経疾患の病態解明、および遺伝子治療、細胞治療を含む先端的治疗法の開発を行っています。

脳神経発達統御学講座 Developmental and Integrative Neuroscience



遺伝子はタンパク質を作り、タンパク質によって脂質・糖質など他の高分子が作られ、それらが集まって神経細胞となり、さらには環境の影響を受けながら脳が誕生します。その脳の知・情・意の総体がこころです。脳をいかに鍛え、成熟させてこころの発達を促すか、脳をいかに守ってこころの健康の維持を図るかを神経科学的に研究し、その最新の成果を医学教育に反映させるようにしています。

器官代謝制御学講座 Metabolic Regulation



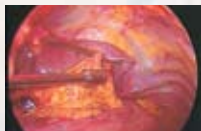
本講座の重点研究課題は「内分泌代謝疾患（ホルモン受容体異常疾患、肥満代謝異常、内分泌腫瘍など）の病態解明と先端的診断・治療」であり、遺伝子改変動物モデルの作成などを通じて先端的研究を推進します。

器官機能制御学講座 Biological Regulation



人体の機能は器官・細胞・分子の各レベルで制御され、その異常が病気となって現れます。本講座では、解剖学・生理学・生化学の手法を用いて各レベルの機能を明らかにする研究や、臨床検査学や整形外科における診断・治療の研究に取り組んでいます。

病態腫瘍制御学講座 Oncology



本講座の重点研究課題は「悪性腫瘍の病因解明および先端的診断法（病理診断、遺伝子診断、画像診断）と先端的低侵襲治療法（先端的放射線治療、重粒子線治療、低侵襲手術）および薬物療法の開発」であり、腫瘍に関する高度な研究の推進と研究者育成を行います。

生体防御機構学講座 Infection and Bioresponse



分子予防医学、細菌学、国際寄生虫病学、法医学、生体統御内科学、小児科学、皮膚科学分野からなり、病原体の特性の追求、生体防御と深い関わりのある造血系や免疫応答、さらには、生体内部環境の維持に必要な体液維持機構の解明を分子レベルで進め、これらの異常によってもたらされる疾病の研究を通じて先端的診断・治療に寄与する教育・研究を行っています。

社会環境医療学講座 Socio-Environmental Health Sciences



本講座では健康を支える社会環境の構築を目指しています。市民との交流を通じたの医療倫理的な諸問題の検討や疫学研究から予防医学への展開、ITを活用した健康増進支援、リハビリテーションや和漢医療を含む総合医療のあり方を模索しながら、教育・研究・臨床活動を行っています。



保健学科は総合的で先進的な保健学教育・研究を展開し、保健医療の専門職として、確固たる倫理観と豊かな人間性を持ち、社会的使命を果たすことのできる人材を育成します。

■ 看護学

基礎看護学 Fundamental Nursing

看護学の入門及び健康で自立した生活を支える援助法に関する知識・技術と看護管理について学習する分野です。より積極的で有効な看護技法の研究開発を行い、教育―臨床実践の連携を目指しています。

臨床看護学 Clinical Nursing

成人期・老年期にある人々の健康増進、疾病・障害、終末期の看護について知識と技術を学習します。生活習慣病、がん看護、高齢者看護について研究を行っています。また、人々の心の健康を守る看護について教育・研究に取り組んでいます。

母子看護学 Maternal and Child Health Nursing and Midwifery

母性の発達、マタニティサイクル、出産の援助（助産）と母親支援について教育・研究に取り組んでいます。また、小児と家族の多様な健康ニーズに対応できるよう、多職種と連携を図った看護支援の教育・研究に取り組んでいます。

地域看護学 Community Health Nursing

国内での地域住民の健康増進や疾病予防に関する様々な保健活動、在宅で療養する人々や家族への看護支援、在日外国人医療及び国外での看護活動や国際看護協力などについての教育・研究に取り組んでいます。

■ 検査技術科学

基礎検査学 Basic Laboratory Sciences

生物学、化学、物理学などの教養科目の知識を基に、臨床検査学の基礎を習得するための分野です。内容は、生化学、臨床化学、基礎生理学、免疫学、遺伝子学の教育と研究を行っています。

応用検査学 Clinical Laboratory Sciences

基礎検査学で学んだ知識や技術を発展させ、臨床検査に応用する分野です。内容は、臨床生理学、微生物学、医動物学、血液検査学、病理組織学、細胞診断学の教育と研究を行っています。

■ 理学療法学

基礎理学療法学 Basic Physical Therapy

主に神経疾患、呼吸器疾患に対する理学療法と動作解析装置などを用いた運動制御について研究しています。また、認知症のリハビリテーションにも積極的に取り組んでいます。

総合理学療法学 Clinical Physical Therapy

主に運動器（筋・骨格系）疾患やスポーツ障害の病態や理学療法について研究しています。また、障害を持っている方の生活支援や介護予防にも取り組んでいます。

■ 作業療法学

基礎作業療法学 Basic Occupational Therapy

障害を持った方々は、日常生活をすこやかに過ごすことが困難になります。この講座では作業活動の視点から、日常生活をすこやかに送るために必要な筋や脳の働き、動作、行為、そして精神の働きなどを研究しています。

心身障害作業療法学 Applied Occupational Therapy

障害を持った方々が、快適で健康的な生活へ復帰するために、作業活動を治療的に展開する方法を修得します。身体障害、精神障害、発達障害、老年期障害及び地域作業療法の領域における教育と研究を行っています。

■ 医療基礎学

医療基礎学 Basic Sciences

学部では、教養教育科目や専門基礎・支持的科目を中心に、幅広く教育しています。研究は、生物学、生化学、物理学、数学、疫学、心理学、健康教育から英文学まで多岐に渡り、教員の過半は大学院も担当しています。



医学科カリキュラム

1 年次

医学の基礎と教養を学ぶ

2 年次

医学の基礎知識を学ぶ

3 年次

医学関連知識を深める

臨床実習にむけ各臓器疾患の知識を獲得

教養教育・専門前教育

医師として基本的な素養と人間性を磨く

1年次・2年次

医師には科学者としての素養とともに、人と社会を理解する文化的な素養が求められます。事実を客観的に捉えて分析し、既知の部分と未知の部分をつまららかにした上で、問題解決の道を探求する科学者としての態度が必要となることはいうまでもありません。一方、臨床の現場での問題解決では、前もって用意されている正解があるわけではありません。一人一人の患者さんが満足できる医療を提供するためには、病気を抱えた人の気持ち、その生活環境や社会的背景までも細やかに理解する態度が不可欠です。このような素養を身に付けるには、人類がこれまで築き上げてきた種々の学問（文化）を教養科目や入学早期の体験実習によって学ぶとともに、異なった価値観や人格をもつ人々と積極的に交わることによって人間性を磨くことが求められます。



生命医学

解剖学から病理学まで、医学の基礎を学ぶ

2年次・3年次



2・3年次に学ぶ、基礎医学とも呼ばれる分野です。疾患を理解するには、まず正常な人体の構造と機能を学ばなければなりません。2年次前期には基礎医学の知識の修得を目標とした生命医学講義、生化学、大学院講義と連携した動物実験学、放射線生物学、基礎遺伝学などがあります。2年次後期からは本格的な専門教育がスタートします。解剖学、組織学、生理学、薬理学、法医学、微生物学、衛生学、寄生虫・免疫学、公衆衛生学、病理学、検査医学などとともに臨床医学の基本を講義と実習を通じて学びます。このような専門科目主体の時期になると、教養科目主体の頃に比べて学生生活はたいへん忙しくなります。気持ちをしっかり切り替え、専門教育に臨んでください。

4 年次 ▶ CBT・OSCE

5 年次 ▶ Advanced OSCE

6 年次 ▶ 国家試験

総合的な知識を獲得する

病院で患者さんと接する

応用医学

国家試験合格を目指し、臨床の現場に

3年次・4年次・5年次・6年次

臨床医学とも呼ばれる分野です。3年次1月からの教育は、提示された症例の問題点を自ら解決していくチュートリアル型学習と従来の座学型講義とのハイブリット形式を採っています。講義内容の重複を避け、全臨床科目を有機的に構成しました。主に附属病院の各診療科をローテーションするクリニカルクラークシップを行います。また、診療参加型臨床実習を計画しています。その後、卒業前臨床実習を行い、実践臨床病態学講義が8～9月にあります。この講義は専門教育の総まとめで、これによって知識を整理し、10～11月にかけての試験に合格すれば卒業できます。2月には医師国家試験を受験しますが、国家試験の合格は医師としてのスタートラインに立てたことを意味するに過ぎません。生涯を通じて学び、社会に貢献する医師、研究者、教育者、医療行政担当者になって欲しいと思います。



教育の特徴

①

チュートリアル型学習

少人数（3～6人）グループの自己学習を基本とした問題解決型の学習システムです。本学科では、1年次の学びのレテラシーと4年次の臨床シナリオチュートリアルがあります。チュートリアル教育用の学習室が18室あり、これらは自習室としても使用できます。



教育の特徴

②

クリニカルクラークシップ

従来の見学型臨床実習では、医学生自身が実際の医療を体験する機会が少なく、医師に求められる基本的診療技術や態度を十分に習得できませんでした。クリニカルクラークシップでは、医学生も医療チームの一員として指導者の監督の下に、規定された範囲の医療行為をいろいろと経験します。ただし、クリニカルクラークシップを行うためには、本学科の学科試験と全国共通のCBT、OSCEで一定以上の成績を修めなければなりません。CBT、OSCEは、患者さんに対して医学生の質（知識、技能、態度）を保証するために行います。



■ CBT (Computer Based Testing)

知識が十分であるかどうかを客観的に評価する試験です。コンピュータにプールされた20,000題の中から、受験者一人一人に対してランダムに320問が出題されます。出題範囲は2年次～4年次の専門教育で学習した全科目です。

■ OSCE 客観的臨床技能試験 (Objective Structured Clinical Examination)

基本的診療技術と診療態度を評価します。4年次修了時にはクリニカルクラークシップに進む前の医療面接（問診）、頭頸部・胸部・腹部・神経診察（身体診察）などの共用試験OSCEを、5年修了後には1年間のクリニカルクラークシップの成果を評価する高度な内容のAdvanced OSCE（本学科独自の試験）を行っています。

Laboratory

医学科研究室

Medical Sciences

日進月歩の医療界において、
研究活動と臨床は表裏一体。
常に先端研究への取り組みが
行われています。



脳神経病態制御学講座
Neurophysiology and Neural Repair

脳神経再生医学



当分野では、難病に指定されている神経変性疾患（特に脊髄小脳変性症）の発症メカニズムの解明や治療法開発をテーマとしています。遺伝子治療や幹細胞治療などの先端研究技術を積極的に取り入れ、電気生理学と組み合わせて世界トップレベルの研究を行っています。

脳神経病態制御学講座
Human Pathology

病態病理学



病理学はヒトの病気の成り立ちを研究する学問領域です。その一方で臨床診療科としての側面も持ち、病理診断は数ある疾病診断手法の中で最も確かなエビデンスを提供します。研究面では脳腫瘍などの中枢神経系を侵す疾患の研究に力を入れており、教育面では日頃から学生さんに開かれた研究室づくりを心掛けています。

脳神経病態制御学講座
Neurology

脳神経内科学



脳神経内科学は脳から筋肉まで幅広い分野を扱う学問領域です。臨床面では詳細な病歴聴取と神経学的診察に加えて最新の画像検査、遺伝子検査などの技術を駆使して診療を行っています。研究面では、社会的にも問題となっている認知症患者の診療と治療法の開発、さらに脊髄小脳変性症などの治療法が確立していない神経変性疾患の根治に向けて研究を進めています。

脳神経病態制御学講座
Neurosurgery

脳神経外科学



脳神経外科は、脳や神経の病気を外科的に治療する分野です。脳腫瘍、脳卒中、脳動脈瘤などの手術には、脳の機能を守るため、マイクロサージャリーと呼ばれる顕微鏡を用いた精密な手術を行っています。

脳神経病態制御学講座
Ophthalmology

眼科学



網膜手術では国内トップの業績を持ちます。網膜硝子体の臨床研究では国際的に高い評価を得ています。網膜脈絡膜の微小循環、糖尿病網膜症の治療、加齢黄斑変性の病態を解明し、新規治療の開発を行っています。レーザー光凝固や眼底疾患学の専門書を出版しています。

脳神経発達統御学講座
Neurobiology and Behavior

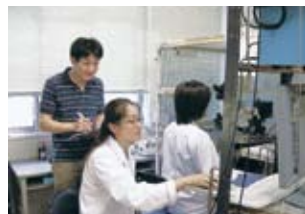
神経薬理学



脳機能を担う神経回路の接合点であるシナプスの機能解明を目指し、遺伝子クローニング、生化学、免疫組織化学、細胞培養、電気生理学、遺伝子改変動物の作成とその行動観察などの方法を用いて、分子から行動まで幅広いレベルで解析を進めています。

脳神経発達統御学講座
Genetic and Behavioral Neuroscience

遺伝発達行動学



遺伝発達行動学分野では、遺伝に関する知識が蓄積されているマウスやラットを利用して脳の機能に関する研究を行っています。これらの研究から、病気の発症機序の解明や治療法の開発に貢献しようとしています。

脳神経発達統御学講座
Molecular and Cellular Neurobiology

分子細胞生物学



神経系細胞（ニューロンとグリア）の誕生から死までを分子細胞生物学的手法で研究しています。特にグリア細胞の発生・分化・生存調節機構と生理機能、神経系細胞と血管系細胞の相互作用を明らかにすることを目指しています。得られた知見を脳・脊髄の再生医学に応用することが究極の目的です。

神経精神医学



精神の病気には「こころの病」と「脳の疾患」の側面があります。こころと脳の両方を対象に、脳科学の最新の知識と技術も導入して診療や研究を行っています。精神医療への客観的指標の試みとして、光トポグラフィー検査を用いた鑑別診断補助もを行っています。

麻酔神経科学



麻酔科の主な仕事は手術を受ける患者さんの麻酔と痛みの治療です。安全に麻酔し、大きな手術を受けても苦痛を感じない治療技術は、痛みに苦しむがん患者さんなどの治療（ペインクリニック）にも応用されています。

生体構造学



電子顕微鏡やレーザー顕微鏡を用いる形態学的方法と、分子細胞生物学的な方法を用いて、臓器や細胞の構造と機能を解析しています。

病態制御内科学



診療科は、消化器内科、呼吸器内科、内分泌糖尿病内科です。いずれの領域も高齢化とともに急増している疾患が多く、最新の治療を提供できるよう体制を整えています。また、新たな疾患概念や生理活性物質の発見など世界をリードする研究を行っています。

泌尿器科学



泌尿器科は尿路（腎臓・尿管・膀胱・尿道）と男性生殖器を扱います。診断から治療（手術療法や薬物治療全般）をすべての分野について行います。特に、腎臓移植や前立腺がんなど、社会的なニーズの高い分野の基礎研究を積極的に行っています。

産科婦人科学



診療科は産科・婦人科で、周産期、腫瘍、生殖の3部門を中心にその専門性を重視して診療体制を整えています。生殖班は不妊治療・体外受精、周産期班は新生児の予後を重視した周産期管理、腫瘍班は最新の診断技術を取り入れ、それぞれ最適な治療を施行するための研究を推進しています。

臨床薬理学



患者個々で薬に対する反応は異なります。当研究室では、ある薬が効きにくい人、または容易に薬物血中濃度が中毒域に達してしまう人などの、いわゆる「薬物治療抵抗因子」について検討することによって、有効で副作用の少ない薬物治療法の構築を目指し、医療に貢献しています。

生化学



細胞膜はリン脂質という脂（あぶら）からできていますが、刺激を受けるとその情報を受けてリン脂質が分解を受けて次の情報を伝える物質に変換されます。当分野では、この脂質の代謝や情報伝達の仕組みを研究しています。

機能形態学



筋肉がどんどん壊れてしまう難病の筋ジストロフィーについて、鍵となるタンパクがどこで、どんなふうに働いているかを研究するとともに、生命誕生に必要なタンパクについても、それがいつ、どこで、どのように働いているかを調べています。

応用生理学



ホルモンなどの生理活性物質が細胞機能をどのように調節するのか、また、環境中の化学物質がその作用をどのように修飾するのか、培養細胞や遺伝子改変動物を用いて研究しています。留学生が多いことも本研究室の特徴です。

臨床検査医学



病気の予防、診断や治療を行ううえで、血液、尿などの検体検査および心電図、肺機能や超音波検査などの生理機能検査が不可欠となっています。当分野では、正確な検査診断法の確立とともに新しい検査法の開発と医療への応用に向けて幅広い研究を推進しています。



整形外科学



運動器（筋肉、骨、関節、靱帯、脊椎、手足の神経や血管など）の病気やケガを治療しています。特に、五十肩、変形性関節症、脊椎症、骨腫瘍などの病態や治療法の研究、さらにはスポーツ医学にも力を入れています。

臓器病態内科学



生体機能の主軸をなす循環器系、呼吸器系を対象とする臨床系内科講座です。患者さんの信頼に応えられる安全で質の高い医療を提供するとともに、世界水準の研究者を育成するためのカリキュラムを編成しています。

病態腫瘍薬理学



がんの制圧は世界共通の悲願であり、現代医学の最大の課題のひとつです。がんの本態・病態の解明を通じ、新規シーズの同定から臨床展開翻訳研究（トランスレーショナル・リサーチ）までの創薬研究、作用機序・生体応答の解明（腫瘍薬理学）を含めた育薬研究など、幅広い相の研究を展開しています。

病理診断学



先進的ながんの病理診断、治療の向上を目指し、患者さんのためになる臨床研究を行っています。その研究分野は、乳がん、前立腺がん、消化器、婦人科領域と広範囲にわたっています。

病態総合外科学



臓器別臨床（食道、胃、大腸、肝臓・胆嚢・膵臓、肝臓移植、小児外科、呼吸器、乳腺・甲状腺）、基礎的研究（病理組織学、分子生物学、腫瘍学、手術侵襲学、消化管運動生理学、再生医療）の2つの観点からのグループが、縦系、横系として有機的に連携して診察・研究と教育を推進しています。

腫瘍放射線学



“切らずに治すがん治療”を目指し、重粒子線治療を含む世界トップレベルの放射線治療から、がん治療に関する分子生物学的な基礎研究まで、多様性に富んだ教育・人材育成を行っています。また、国際原子力機関への研究協力など国際活動も積極的に行っております。

放射線診断核医学



画像診断は、現代医学に欠かせないものとなっています。エックス線発見、ラジウム発見から100年余り。CT、MRI、US、PET、SPECTなどの画像診断やIVR・核医学治療などの治療法も発達しています。群馬大学では古くからその臨床応用と開発に力を入れています。

顎口腔科学



口腔を中心に歯、顎骨とその隣接組織の疾患を扱う医学分野です。特に口腔がんの外科的治療法と鏡視下微小血管吻合技術を用いた遊離組織移植（マイクロバスキュラリージャリ）による口腔がん切除後の機能的、整容的再建を臨床、研究の中心としています。さらに、顎口腔領域のさまざまな疾患の治療法や創傷治癒機序などを上皮の細胞代謝の面から研究しています。

臓器病態外科学



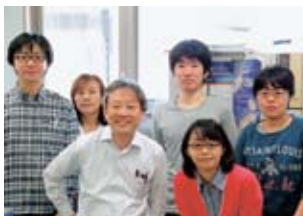
心臓、大血管、肺、乳腺、消化管、肝臓など様々な臓器の手術を行っています。胃・大腸・肺・肝疾患に対する鏡視下手術やセンチネルリンパ節生検を用いた乳癌手術、胸腹部動脈瘤に対する血管内治療などの低侵襲手術を積極的に行っています。また人工心肺補助下の大静脈切除・置換術などの拡大手術にも取り組んでおります。

耳鼻咽喉科・頭頸部外科学



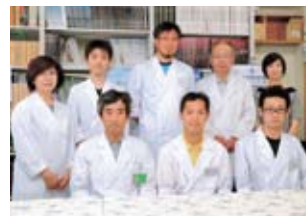
我々の教室では、感覚器（聴覚、平衡覚、嗅覚、味覚）と運動機能（呼吸、発声、咀嚼、嚥下）を含めた頭頸部領域の疾患について研究し、臨床に生かせるよう努力を続けています。主に頭頸部癌における腫瘍免疫学と癌の細胞生物学、平衡覚の神経生理学と臨床応用の2つのテーマで研究を行っています。

分子予防医学



ヒトサイトメガロウイルスを中心に、その病原性発現機構を組換えウイルスを作成して解析しています。そして将来、病原性を無くした組換えウイルスが弱毒ワクチンとして使用され、少しでも人の健康に寄与できることを目指しています。

細菌学



細菌がヒトに感染症をおこすための種々の性質（形質）と関連する遺伝現象を分子生物学的に解析しています。特に薬剤耐性菌、日和見感染菌とヒト及び環境との関わりを包括的に研究しています。

国際寄生虫病学



世界の3/4を超える人々が何らかの寄生虫病にさらされています。ボーダレス時代の現在、日本で寄生虫病に遭遇する機会は今後ますます増加するでしょう。我々は国際協力も視野に入れ、寄生虫病、特にマラリアを制圧するための戦略について、また寄生虫病とアレルギーとの関係について、免疫学的に研究しています。

法医学



医学の知識を法律上の問題解決に応用する科学です。事件解決のため、死体を解剖して死因を解明し、血液型やDNA型を検査して親子関係を明らかにするなど、社会問題を医学的に解決する研究に取り組んでいます。

生体統御内科学



内科学は臨床医学の根幹を成す学問体系です。当内科学教室では患者さんの信頼に応えられる良質な医療を提供するとともに、人間愛にあふれた臨床医ならびに研究者を育成するためのカリキュラムが編成されています。

小児科学



小児科は患者さん・家族と一緒に悩み、学び、そして共に成長する分野です。病気を治すことのみではなく、子どもたちの未来を創ることが私たち小児科の使命です。そのため、単に病気の知識だけではなく、豊かな人間性と倫理性を兼ね備えた全人的な医療を目指しています。

皮膚科学



皮膚疾患には、皮膚固有のものと、全身性疾患に伴ってあらわれるものがあり、その多彩な皮膚病変を間違いなく診断・治療できる医師、さらに研究者の育成を推進しています。研究課題には、皮膚の老化と変性、膠原病、免疫アレルギー、がんなどがあります。

公衆衛生学



公衆衛生学分野は、社会環境の中で健康を支える要因を増やし、阻害する要因を制限することによって、健康に暮らせる社会環境の構築を目指しています。具体的な研究内容は、微量元素セレンの生体影響の解明と疾病予防・がん治療への応用、うつスクリーニング調査票の開発と自殺予防対策、インドネシアと日本の医療制度の比較などです。

医学哲学・倫理学



医学・医療の目的って何だろう。健康と病気の境目はどこにあるのだろう。医療者は、患者さんの人生にどこまで踏み込んでよいのだろう。何が患者さんの最善の利益なのか、それを決めるのは一体誰なのか。どんな医療がよい医療なのか。こんなことを考え抜こうとしています。

総合医療学



東洋医学と西洋医学の利点を生かした新しい診療体系を作り出そうとしています。研究面では、現在社会の重要課題である老年医療を主要なテーマにしています。これらを通して、社会に貢献する総合医療学を目指しています。

救急医学



病院の最前線で、外傷、心臓・大血管疾患、脳血管障害、熱傷、中毒、感染症等のあらゆる病態に対して、軽傷から重症患者まで幅広く対応しているのが特色です。災害医療にも積極的に取り組み、新潟中越地震、中越沖地震および東日本大震災への災害医療チーム派遣の実績があります。また、院内でのBLSやICLSコースを開催し off-the-job training にも力をいれています。

リハビリテーション医学



リハ医学は障害の診断と治療を行う臨床医学です。幅広い専門分野があり、医師、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、ソーシャルワーカーなどが協力して診療、研究、教育を行います。いろいろな測定機、解析器機を用いて診断法の開発、治療への応用を研究します。

情報医療学(協力分野)



現代の医療・保健・福祉においては、医療システム全体に情報技術を適用し、情報の標準化と部門間の連携を保ち、運用を行う必要があります。当分野では、医療管理学や情報医療学に関する基礎知識を獲得するとともに、診療情報や医療情報の取り扱いに関する基礎的素養を与えることを目的に研究を進めています。



CURRICULUM

保健学科カリキュラム

Health Sciences

Department of Nursing

看護学専攻

医療・保健の現場で看護の専門性を発揮できる能力と国際看護協力が実践できる能力を育成します。

教育特徴

生命、個人を尊重し、的確な看護を提供するために、看護の専門的知識や技術を学びます。病気を予防する健康教育、健康回復への支援、終末期ケア、人間のライフサイクル各期における看護を習得し、高度・専門化した保健医療福祉に対応できるような教育を行います。

看護学専攻の教育目標は、保健医療の専門職として、健康問題を有する人々に接する真摯な態度と生涯にわたる自己学習の習慣を体得することにあります。学生が将来、保健医療福祉におけるチームの中で看護の専門性を発揮し、ケアの調整やマネジメントにリーダーシップを発揮でき、さらに、国際化の進展に対応して世界の看護に視野を広げ、国際看護協力が実践できる人材を育成します。看護師または保健師、助産師になるために、看護学の基本的知識を理解し、科学的でクリティカルな思考能力と看護の実践に必要な基本技術を修得することを目指しています。

看護学専攻のカリキュラムは、看護師、保健師、助産師の各専門領域における知識や技術が効率よく修得できるように工夫されています。具体的には、①人間の身体的・精神的側面、人間を取り巻く社会環境についての学習、②看護学の基礎理論や方法論の学習と看護実践能力の修得、③人間のライフサイクル各期における健康の保持増進を図るための知識と援助技術の修得、④看護活動の場の拡大に対応した看護実践能力の修得、⑤健康障害者の看護を実践する知識と援助技術、態度の修得、⑥国や地域レベルの健康課題の解決とシステムづくりに関わる看護実践能力の修得から構成されています。先駆的に臨床と連携して看護専門外来を開設・運営し、卒後のキャリア開発の教育も目指しています。



Department of Laboratory Sciences

検査技術科学専攻

高度な知識と技術を備え、国際的な活躍ができる臨床検査技師を育成します。

教育特徴

日進月歩で発展する検査技術科学分野の専門知識や技術を学び、検体検査、生理機能検査、病気早期発見のための検査、遺伝子検査、画像解析などをマスターして、高度・専門化した医療に対応できるような教育を行います。



検査技術科学専攻では、「全人的医療」・「チーム医療」・「バイオサイエンス」をキーワードに、確固とした倫理観と豊かな人間性をもち、高度な技術と知識を備えた臨床検査技師育成を目指しています。チームワーク実習を通じて、チーム医療の重要性を指導すると共に、遺伝子検査や画像解析などの最新検査技術の教育に力を入れています。

また、高度な臨床検査学の教育・研究体制を支える人材を育成するため、卒業研究に1年間に当て、各教員の指導のもと研究を行い、論文作成を行っています。これにより、十分な研究手法及び研究的思考法を習得し、将来研究職・教育職につく人材育成が可能です。また、国際社会で活躍できる人材育成のため、英語論文の輪読などを通して、英語による口頭・紙上発表の基本を学びます。さらに、国際的視野を広めるため、ワシントン大学医学部臨床検査学科との交換留学も実施しています。また、本学では細胞検査士養成コース（3～4年次）を開設しており、修了者は4年次に同資格認定試験（日本臨床細胞学会）の受験資格が得られます。

このように、本専攻では日本のみならず、世界で指導的役割を担える臨床検査技師の育成を行っています。

Department of Physical Therapy

理学療法学専攻

新しい機能回復の理論、技術の研究・
開発能力を育てていきます。

教育特徴

専門職としての態度や実践的な技能の修得が円滑に
図れるよう、科目の枠を超えた教育を心がけ、机上で
の学習だけではなく、臨床での体験や実習などを通し
た能動的な学習への支援を重視しています。

少子・高齢社会という現代の日本において、疾病構造の変化や医療・福祉サービスの多様化、グローバル化に伴い、理学療法士に求められる社会的ニーズも拡大しています。その社会的ニーズに応えるためには、人間や社会を幅広く捉える知識と実践的で効果的な技術が求められています。理学療法学専攻では、医学や人間学等の知識をもとに、理学療法に必要な疾病と障害の成り立ちやその実態についての基礎的知識を学び、機能や障害を評価する方法、障害に対する運動療法、物理療法、補装具療法などの適応理論と臨床応用を学びます。また、運動器系理学療法学、神経系理学療法学、発達障害理学療法学、内部障害系理学療法学などの専門的な理学療法の理論と技術を習得し、急性期から地域や在宅での理学療法、健康管理やスポーツ分野での理学療法など、幅広い分野における理学療法について学びます。さらに、海外の理学療法に触れられる機会として、アメリカやモンゴル国での研修プログラムや留学生との交流にも力を入れています。そして、世界的視野でこれからの理学療法学の発展に貢献できる新しい理論や治療技術の研究・開発能力を修得し、臨床・教育・研究の分野において活躍できる人材の育成を目指しています。



Department of Occupational Therapy

作業療法学専攻

心と体に障害を持つ人々の生活支援の
知識と技術を学びます。

教育特徴

健康機能を制限された人に対する専門的な判断力や
接触態度を養い、作業活動の活用、評価・治療・援助
及び研究に必要な知識と技術を学び、臨床実習で専門
職業人としての学習を統合します。



作業療法は、心身の健康機能を制限された方々が、自立生活に必要な日々の生活技術や社会的適応能力を修得して、快適で個性的な生活を営めるように援助することを目指します。また、作業活動を治療・援助の手段として、対象者の方々のニーズを満たし、心身の健康機能や生活の質の向上を目指すサービスです。

作業療法学専攻では、基礎分野として、科学的思考の基盤や人間と生活に関する教養科目を学び、人間理解を深めます。専門基礎分野として、人体の機能・構造や心身機能の発達、疾病や障害とそれらの回復過程、保健・医療・福祉とリハビリテーション理念を学び、専門性の基礎理解を深めます。専門分野として、作業療法過程の構築、評価、治療援助、地域生活への適応、臨床実習及び研究に必要な知識と技術を学び、専門職業人としての学習を統合します。

卒業生は、保健・医療・福祉など実践の職場で活躍するほか、大学院博士課程（前期・後期）に進学しています。作業療法士には、近年、地域社会での障害予防や健康増進、特別支援教育の担い手としても期待が高まっています。

保健学科教員



日進月歩の医療界において、
研究活動と臨床は表裏一体。
常に先端研究への取り組みが
行われています。

看護学専攻

基礎看護学・近藤 由香 准教授



主にがん患者へのリラクゼーション法の介入、看護師のリラクゼーション法の教育に関する研究を行っています。今後もリラクゼーション法を臨床に活かすことができる研究、がん患者の症状緩和の支援に関する研究を行っていきたくと思っています。

看護学専攻

基礎看護学・柳 奈津子 講師



看護における基礎的な技術——特に指圧・マッサージ、アロマセラピー、リラクゼーション法などリラクセスを促すための技術の効果の検証を行っています。また、リラクゼーション外来では、それらの技術を提供し指導しています。

看護学専攻

基礎看護学・辻村 弘美 講師



主な教育活動としては、基礎看護学演習や実習、コミュニケーションに関する授業を担当しています。また、異文化看護や認知症に関する研究などしています。皆さんの若々しく、そして力強いパワーをいただきながら、私自身も成長していきたいと思っています。

看護学専攻

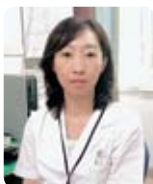
基礎看護学・桐山 勝枝 助教



基礎看護学の演習・実習を担当しています。ホリスティックケアとして、「エネルギーヒーリング」による自己治療力に関心を持ち実践しています。また、日本ホリスティックナースング研究会の事務局運営を通し、看護師やセラピストの方々と学びを深めています。

看護学専攻

基礎看護学・中村 美香 助教



1、2年生の基礎看護学の演習と実習を主に担当しています。研究テーマとしては看護管理学の中の看護職のキャリア形成や組織マネジメントに関して関心を持ち取り組んでいます。

看護学専攻

臨床看護学・神田 清子 教授



がん患者・家族のセルフマネジメント、症状緩和支援、End of Life Careに関する研究を行っています。大学院教育では、がん看護専門看護師の育成も行っています。がん相談に参加し、教育と臨床実践の有機的な連携を図っています。また、群馬がん看護ネットワークづくりを行っています。

看護学専攻

臨床看護学・岡 美智代 教授



生活習慣病患者における塩分制限や運動などの自己管理に関する研究を行っています。またエビデンスを活用した看護についても取り組んでいます。大学院では慢性疾患看護専門看護師の教育を行っています。
<http://oka.dept.health.gunma-u.ac.jp/>

看護学専攻

臨床看護学・二渡 玉江 教授



手術を受けるがん患者の意思決定、心理適応過程の支援に関する研究を行っています。同じ講座の神田教授とともに、がん看護専門看護師教育、がん看護研究会、外来看護相談を行い、教育と臨床の連携、研究成果の実践活用を進めています。

看護学専攻

臨床看護学・近藤 浩子 教授



こころからだを健康にしていけるヒーリングの研究を行っています。これをストレスマネジメントや疾患を持つ人への癒し技法として活用してもらうために普及活動をしています。精神看護の教育では、グループ療法や認知療法的アプローチに力を入れています。

看護学専攻

臨床看護学・内田 陽子 准教授



専門は高齢者のアウトカム評価と経済的評価、ケアの質改善。現場のフィールド調査を基本とし研究を進めています。大学や臨床現場の教育活動、地域との連携活動と多岐にわたっていきいきと楽しく、明るく、前向きに活動しています。

看護学専攻

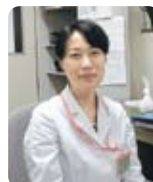
臨床看護学・上山 真美 講師



老年看護学の演習と実習を担当し、介護老人保健施設で実習指導をしています。女性や高齢者の排尿障害・膀胱留置カテーテル除去後のケア・看護相談・予防活動等についての研究に取り組んでいます。

看護学専攻

臨床看護学・茂木 英美子 助教



成人看護学の演習と実習を担当しています。研究テーマは、慢性疾患における患者教育と患者－看護師間のコミュニケーションです。慢性疾患の患者さんが自分自身の生活を大切にできるよう、効果的な患者教育について取り組んでいます。

看護学専攻

臨床看護学・堀越 政孝 助教



3、4年生の成人看護学臨床実習や演習を主に担当しています。専門分野は、急性期・周術期です。附属病院でがん相談専門外来も担当しています。また、「がん看護」「看護学生の学び」をキーワードに研究を行っています。

看護学専攻

臨床看護学・坂入 和也 助教



精神看護学実習を担当しています。高齢者や発達障害児を対象とした動物介在活動（アニマル・セラピー）の実践・評価などを行っています。また、災害時の精神障害者の支援について、調査・研究を行っています。

看護学専攻

臨床看護学・藤本 桂子 助教



成人看護学を担当しています。研究テーマはがん患者さんと家族、特にお子さんとのコミュニケーションです。がんの告知を受けた後も、子どもと真のコミュニケーションをとりながら、親子の成長を続けられるよう、効果的な支援について取り組んでいます。

看護学専攻

母子看護学・常盤 洋子 教授



母親意識の発達に関する研究、出産体験の意味づけに関する研究、生涯学習の視点からとらえた助産師基礎教育と臨床の協働型継続教育プログラムの開発に関する研究を行っています。また、母性看護外来（看護専門外来）で妊娠・出産にかかわる悩みや不安に関する看護相談を行っています。

看護学専攻

母子看護学・篠崎 博光 教授



子宮頸がん抑制に関する研究（子宮頸がん検診率の改善、HPV ワクチン）、思春期の健康障害（月経前緊張症、性教育）、婦人の健康支援（更年期障害、冷え性）などのウイメンズヘルスや卒前チーム医療教育の臨床現場における効果の検証などを行っています。



看護学専攻

母子看護学・佐光 恵子 教授



小児の健やかな成長発達や QOL の向上のために、小児保健・学校（思春期）保健を含む、子どもを取り巻く家族・社会の変化や新たな健康課題、多様なニーズに対応できるよう、多職種と連携して、新たな看護を創造し提供していくことが、今求められる「小児看護」の社会的使命と考えています。

看護学専攻

母子看護学・國清 恭子 講師



妊娠・出産にかかわるメンタルヘルスに関心があり、現在は臨床現場で使用できる出産体験の満足感を知るための尺度開発に取り組んでいます。また、母性看護外来で主に妊産婦の看護カウンセリングもを行っています。

看護学専攻

母子看護学・金泉 志保美 講師



医療依存度の高い子どもの在宅療養へ向けた支援や、在宅療養中の子どもと家族の QOL 向上のための支援に関する研究に取り組んでいます。また、乳幼児期の生活リズムと健康問題をテーマとした健康教育を手がけてきています。

看護学専攻

母子看護学・牧野 孝俊 助教



成長発達過程にある子どもの特徴や QOL 向上を念頭に置き、小児看護学方法論・方法論演習、小児看護学実習を担当しています。また、「父親の育児」や「Interprofessional Education」をキーワードとし、研究を行っています。

看護学専攻

母子看護学・高津 三枝子 助教



母性看護学・助産学の演習や実習を担当しています。正常な妊娠経過にある妊婦の保健指導に関する研究を行ってきました。ひとりでも多くの女性が快適なマタニティライフを過ごすことができ、また安心して出産に臨むことができるように、今後も妊婦のセルフケアに関する研究を進めていきたいと思っています。

看護学専攻

地域看護学・牛久保 美津子 教授



病気や障害をかかえながらも、住みながらの自宅での安全・安心に暮らせるための療養生活支援について、さまざまな角度から考え、取り組みます。

看護学専攻

地域看護学・佐藤 由美 教授



「在日外国人学校に通う子供の健康支援」、「地域での健康づくり活動の推進」、「生活習慣病予防の保健指導」など地域の健康課題に対し、保健師や地域住民等関係者と共同で実践的な研究に取り組んでいます。

看護学専攻

地域看護学・森 淑江 教授



看護分野の国際協力、諸外国の看護・看護教育制度、異文化看護、在日外国人・在外邦人への看護、災害看護などに関する研究を広く行うとともに、日本国内の国際協力に携わる人材や海外の看護職を対象とした研修も実施しています。

看護学専攻

地域看護学・井出 成美 准教授



介護予防、生活習慣病予防など、予防に関わる看護について興味関心を持っています。今は、「高齢者のエンパワメントと介護予防」や「高齢者の健康維持・日常生活維持能力」に関する研究に取り組んでいます。地域の保健師や住民の皆さんと取り組んでいきます。

看護学専攻

地域看護学・桐生 育恵 助教



地域看護学の演習や実習を担当しています。子どもからお年寄りまで、幅広い人々を対象とする保健師の役割や支援技術が研究テーマです。現場のスタッフとともに、地域の健康づくりに取り組みながら、実践的な研究に取り組んでいます。

看護学専攻

地域看護学・横山 詞果 助教



在宅看護学実習や演習を担当しています。障がい者の地域支援に関する研究に取り組んでいました。地域や自宅で過ごす人達の生活を尊重した看護に魅力を感じています。今後は、多職種・地域連携に関するテーマに取り組もうと思っています。

看護学専攻

地域看護学・粕川 理恵 助教



地域看護学実習や演習を担当しています。子育て支援に関心があり、家族や地域で子育てを支えていくための研究に取り組んでいます。地域の保健師や住民の皆さんと共同しながら取り組んでいます。



検査技術科学専攻

基礎検査学・江本 正志 教授



当教室では、NKT 細胞をはじめとする各種免疫担当細胞、並びに肝臓、腸管、骨髄を中心に私たちがその存在を明らかにした未知の細胞群の生体内における役割解明を中心に研究を進めています。
●当教室のホームページ
<http://www.geocities.jp/emotolab/>

検査技術科学専攻

基礎検査学・興石 一郎 教授



生体内で恒常的に産生される活性酸素種・活性窒素種は、疾患と言う観点からは悪玉と考えられています。一方で、健康時におけるホメオスタシスと言う観点からは善玉であるとする考え方があります。当研究室では、これらの分子種が、善玉・悪玉としてふるまう方向性を決定する要因を解明しようとしています。

検査技術科学専攻

基礎検査学・安部 由美子 准教授



種々の細胞で様々な作用を発揮している増殖因子アクチビンとインヒビン、及びアクチビンの結合蛋白質フォリスチンの作用と産生調節機構を研究しています。インヒビンとアクチビンには複数の分子種が存在するため、分子種に特異的な測定法も開発しています。

検査技術科学専攻

基礎検査学・中里 享美 准教授



生体内で必須微量金属（Zn、Cu）の代謝調節や重金属（Cd、Hg）の解毒、酸化ストレスの軽減、細胞の増殖・分化、化学発がんの防御等に関与する蛋白であるメタロチオネンについて、様々な条件下での生体内における発現や動態を研究しています。

検査技術科学専攻

基礎検査学・熊 焜 助教



環境に適して脳・中枢神経機構はどのように関わっているのかを中心として研究をしています。また、環境の影響がどのように脳神経の発達や機能に関わっているのかを、動物実験、分子生物学的な手法を用いて研究しています。

検査技術科学専攻

基礎検査学・時田 佳治 助教



糖鎖は生理機能や疾患の発症と深い関わりがありますが、その動態や機序はよく分かっていません。そこで、①免疫学や分析化学的手法による種々の糖鎖定量法の確立とその動態解析、②分子生物学・細胞生物学的手法による機序の解明を目指して研究を進めています。

検査技術科学専攻

基礎検査学・鬼塚 陽子 助教



感染症の中で、特に寄生虫症に着目し研究しています。寄生虫は、どのようなメカニズムで感染し、症状を引き起こすのか、ヒトと寄生虫との相互作用を、分子生物学的及び細胞生物学的手法を用いて解析し、迅速診断や感染予防に役立てたいと考えています。

検査技術科学専攻

基礎検査学・笠松 哲光 助教



白血病などの血液疾患を対象として分子生物学的・免疫学的技術を用いた研究を行っています。疾患と宿主との関係を解明し、新しい検査法や診断法の開発を目指しています。

検査技術科学専攻

応用検査学・村上 博和 教授



当研究室では、血液疾患、特に血液腫瘍の検査・診断法の開発を目的に基礎研究をしています。主に遺伝子学的技術や免疫学的技術を用いて研究をしています。その他、骨髄腫という血液腫瘍の全国的治療研究にも参加しています。

検査技術科学専攻

応用検査学・横山 知行 教授



心電図、肺機能、超音波、MRI、脳波などの生理機能検査を担当しています。現場のニーズに十分に答えられる臨床検査技師を目指すとともに、呼吸循環器に関する分子生物学から生理学までの幅広い研究を行っています。

検査技術科学専攻

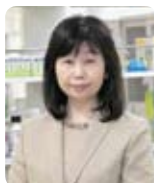
応用検査学・福田 利夫 教授



ヒトの病変の病理組織診断、細胞診断を主な研究対象とし、基本的な組織標本作製技術、染色技術の検討・改良とともに、組織・細胞材料を用いた分子生物学的解析や検討も行っています。種々のがんを対象にして研究していますが、特に子宮頸部がんの発生とヒト乳頭腫ウイルスとの関連、子宮体部がんの前がん病変の解析、骨・軟部腫瘍、分子細胞学的解析法について研究し、液化化した検体の細胞診断への応用と診断に有用なマーカーの検索と評価も行っています。

検査技術科学専攻

応用検査学・嶋田 淳子 教授



当研究室では国際的感染症であるマラリアやトリパノソーマを対象として分子生物学的研究を行っています。これらの病原体感染による宿主応答などについて分子レベル、細胞レベルで解析し、薬剤開発の研究も進めています。

検査技術科学専攻

応用検査学・齋藤 貴之 准教授



専門は血液を中心とした腫瘍学です。研究は、分子生物学的アプローチにより疾患と宿主の関連を同定することを試んでいます。臨床の現場に役立つ研究を目指します。

検査技術科学専攻

応用検査学・吉田 朋美 助教



患者さんから採取された細胞を顕微鏡で観察し、良性・悪性の鑑別、病気の判定まで行う「細胞診断」のスペシャリストを目指す学生でいっぱいです。また細胞材料を用い、早期診断に貢献できるような研究も行い、国内・外の学会発表も盛んに行っています。

検査技術科学専攻

応用検査学・松井 弘樹 助教



肥満や糖尿病が虚血性心疾患や動脈硬化、呼吸器疾患などに及ぼすリスクについて、ヒト、動物、細胞など様々な対象から分子レベルによる解析と、超音波検査やCT検査などの画像解析を合わせて検討することで、生活習慣病の予防へ向けた研究をしています。



理学療法学専攻

基礎理学療法学・山口 晴保 教授



認知症と地域リハを研究テーマに、アルツハイマー病の脳βアミロイド沈着の病理学的研究、認知症の早期診断のための臨床研究、地域に暮らしながら必要なリハサービスを受けられる地域リハ推進活動などを行っています。

理学療法学専攻

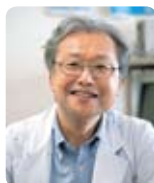
基礎理学療法学・土橋 邦生 教授



研究テーマは、各種呼吸器疾患（喘息、COPD、がん、感染症）発症への、酸化ストレスの関与を、人の吸気中に含まれる成分の測定や、培養細胞を使った研究をしています。また、慢性呼吸器疾患の呼吸リハビリテーションの有効性の検討をしています。

理学療法学専攻

基礎理学療法学・臼田 滋 教授



基本的動作能力について、三次元動作解析装置などを用いた基礎的な研究や臨床で使用できる評価尺度の開発を行っています。また、高齢者の健康関連体力や転倒、介護負担感、社会参加などに関する調査研究にも取り組んでいます。

理学療法学専攻

基礎理学療法学・松田 祐一 助教



骨格筋の筋発揮力、筋力、筋反応時間などについて、若年者から、高齢者まで幅広く研究しています。特に現在は高齢者のストレングスエルゴによる脚伸展筋力について検討しています。

理学療法学専攻

基礎理学療法学・朝倉 智之 助教



臨床では中枢神経疾患の患者さんを中心に担当しています。教育については附属病院での臨床実習のコーディネーター等で学生と関わっています。また研究活動として、三次元動作解析装置を用い健康者および患者の動作分析を行っています。

理学療法学専攻

総合理学療法学・坂本 雅昭 教授



本研究室では、1) スポーツ外傷・障害の予防に対する理学療法、2) 中・高齢者及び障害者の健康評価と健康づくり、3) アスレティックリハビリテーションなどに関する研究を行っています。また、県内中学・高校サッカー、バスケットボール、野球大会等での理学療法サポートを行っています。

理学療法学専攻

総合理学療法学・渡邊 秀臣 教授



運動器の病変や外傷、スポーツ障害に対して最新の診断法や治療法の研究を行い、またチーム医療教育の成果について研究をしています。治療面では手術療法と術前、術後の理学療法を包括的に活用する運動器機能回復治療の研究をしています。

理学療法学専攻

総合理学療法学・浅川 康吉 准教授



高齢者・障害者が住み慣れた地域で暮らし続けることを支援する地域リハビリテーションの研究に取り組んでいます。専門は生活環境支援系理学療法学で、主な研究分野は日常生活活動、運動器の機能向上、介護予防です。

理学療法学専攻

総合理学療法学・山路 雄彦 准教授

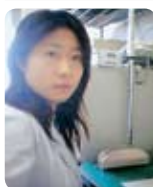


臨床では主に切断者や肩関節疾患を担当し、教育では補装具（義肢や装具）、基本的・応用的臨床技能実習などを担当しています。研究では、生理的振戦をはじめとした生体信号解析や三次元動作解析装置による歩行やスポーツ動作の解析を行っています。



理学療法学専攻

総合理学療法学・久留利 菜菜 助教



呼吸・循環・代謝に関連する内部障害のリハビリテーションやNCDs (Non Communicable Diseases) の分野に興味があり、学部では主にPBLIIIで内部障害分野の理学療法や生物学でも呼吸・循環の授業を担当しています。また、心臓リハビリテーション指導士 (RICR; Registered Instructor of Cardiac Rehabilitation) の資格も有しており、呼吸代謝測定装置を使った運動指標や予防についての研究を検討しています。また、米国研修やWHOCC関連研修など国際保健の分野でも活動しています。

理学療法学専攻

総合理学療法学・中澤 理恵 助教



臨床理学療法学実習室などの運動器系の授業の実習を担当しています。また、成長期 (特に中学生年代) のスポーツ傷害予防に関する研究を中心に、行い、県内中学・高校サッカー及び高校野球大会など、スポーツ現場での理学療法サポートにも取り組んでいます。



作業療法学専攻

基礎作業療法学・守口 善也 教授



心身・精神医学の領域で、身体とこころの関係について、脳機能画像等を用いて研究しています。特にストレス関連疾患での情動の認知・制御の破綻を明らかにし、ニューロリハビリテーションを用いた自己の脳のコントロールによる治療法を開発しています。

作業療法学専攻

基礎作業療法学・外里 富佐江 教授



専門領域は、主に、高次脳機能障害者・高齢者の作業療法の効果と介入、社会参加、障害の心理的適応に関して研究をしています。年齢、性別、人種、障害のあるなしに関わらず、同じ地域で好きな生活スタイルで暮らしていけるような世界を目指しています。

作業療法学専攻

基礎作業療法学・三井 真一 教授



遺伝子操作マウスを用いて精神発達障害の病態や発症機構に関する研究を行っています。また、夫婦や家族の絆が損傷神経の回復に及ぼす影響についても分子・細胞レベルで研究しています。これらの成果は精神疾患や神経再生の診断治療法開発の基盤となります。

作業療法学専攻

基礎作業療法学・李 範爽 講師



学部教育では作業療法の中でも主に身体障害領域の講義・実習を担当しています。また、脳機能画像法や運動生理学的手法を用いて、日常生活を営む上で必要な、感覚、認知、運動機能について研究しています。

作業療法学専攻

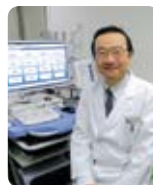
基礎作業療法学・高橋 麻衣子 助教



細胞内の膜小胞輸送に関与するタンパク質について、その局在や機能の解明をテーマに、研究を進めています。主に、マウスの各臓器や培養細胞を用いて、実験を行っています。

作業療法学専攻

心身障害作業療法学・山崎 恒夫 教授



専門は臨床神経学で、主として細胞生物学的アプローチを用いた認知症の研究を行っています。今後は認知症によって生じる高次脳機能障害の分野にも研究のフィールドを広げようと考えています。

作業療法学専攻

心身障害作業療法学・今井 忠則 准教授



学部では、精神保健・メンタルヘルス領域における作業療法の専門科目を主に担当しています。大学院では作業療法理論、作業科学に関する講義を担当しています。作業参加と健康・well-beingとの関連を実証的に明らかにするべく調査研究に取り組んでいます。

作業療法学専攻

心身障害作業療法学・十枝 はるか 講師



発達障害の2次障害の予防につながる早期支援の在り方について研究しています。発達障害をもつ子どもが薬物療法といった医療の対象となる前に、適切な保育・教育環境による発達支援を提供する地域社会の構築に、作業療法士だからこそ貢献できると考えています。

作業療法学専攻

心身障害作業療法学・勝山 しおり 助教



認知症や要介護状態の高齢者・障害者の「わたらしい生活・人生」の遂行が行えるよう、予防的観点も含めた作業療法の実践について興味を持って取り組んでいます。

作業療法学専攻

心身障害作業療法学・亀ヶ谷 忠彦 助教



地域高齢者の介護予防とヘルスプロモーションをテーマに、地域の医療機関や行政と協力して研究に取り組んでいます。車いすなど各種福祉機器を用いた高齢者・障害者の自立生活支援も研究テーマです。海外の大学との交流プログラムに積極的に取り組んでいます。



医療基礎学

医療基礎学・都丸 正 教授



授業は数学と統計学を担当しています。研究分野は数学の中の複素解析空間の特異点論で、この10年間ほどは、リーマン面の退化族との関連を研究しています。

医療基礎学

医療基礎学・林 邦彦 教授



医療従事者からなる大規模女性コホート研究 (JNHS) で、日常生活や保健医療習慣がどのように健康に影響を与えるかを、経時的に調査しています。また、子宮内膜症患者コホート研究 (JEMS) など、集団を対象とした疫学という研究法で予防や治療の評価を行っています。

医療基礎学

医療基礎学・吉田 亨 教授



地域保健活動に不可欠な健康教育とヘルスプロモーションについて研究しています。住民 (当事者) 参加による保健福祉のまちづくりに関心があり、大学院では地域健康推進学を担当しています。

医療基礎学

医療基礎学・大西 浩史 教授



生体制御に関わる細胞シグナルの分子メカニズムと機能について、中枢神経系や生体のストレス応答を対象とした基礎研究を行っています。生命システムの姿を明らかにすることで、より健康で安全な暮らしの基礎を形づくることを目指します。

医療基礎学

医療基礎学・村田 祥子 准教授



心理学の立場から、行動指標・生理指標を用いて人間の適応過程に接近を試みています。適応過程には学習機構が深く関わると捉え、主要な課題として記憶、学習の領域を位置づけています。

医療基礎学

医療基礎学・上宮 英之 講師



原始的な昆虫類が、どのような発生をするかを調べて、それを元に昆虫を含む節足動物がどのように進化してきたのかということを研究しています。担当授業科目は、生物学Ⅰ、情報処理入門、昆虫の科学、動物の分類と進化、虫の名前を調べてみようです。

医療基礎学

医療基礎学・豊村 暁 講師



脳機能計測と行動計測を主な手法として、吃音など発話運動制御に関する研究を行っています。また、四肢のリズム運動が発話流暢性を促進することから、二足歩行の研究も行っています。物理学、医用電子工学などの授業を担当しています。

医学科

増田 萌

医学部医学科2年
東京都 私立女子学院高等学校 出身

医師の先輩でもある父もすすめた群馬大学 学部間交流、丁寧な講義内容がうれしい



Masuda Moe

高校1年生のときに、祖父が他界。その時、担当医にとってもよくしていただき、医療現場を肌で感じたことから医師を志すようになりました。本学を選んだのは、一番の理由は総合大学だったから。単科大学ではできない、他学部との交流が持てる点が魅力でした。また、父が病院に勤務している医師なのですが「実習に来る群馬大学生はみんな熱心で周りからの評判がよく、悪い話を聞いたことがない」とすすめてくれたのも大きかったですね。入学してからは、先生との距離が近いところや、のびやかな雰囲気も気に入り、ますます群大に入学して良かったと思うようになりました。

今一番興味のある科目は、生命医学。基礎医学と呼ばれるもので体の機能を細胞から学ぶのですが、高校の生物に近いものがあります。丁寧に教えてもらえるので、高校の授業であいまいだったことが分子レベルでクリアになってとても楽しいですよ。将来は、まだはっきり決めていません。法医学の道も魅力的だし、産婦人科にも興味があります。研究もやってみたい。医学の知識を生かせる場所はたくさんありますから、6年間という恵まれた時間の4中でじっくり決めていこうと思います。

週に3回は、バレー部の練習で汗を流しています。経験はありませんでしたが、勧誘されてやってみたら直感的にピピッときて今は夢中。チーム競技であるバレーは、自分の役割を生かしつつ、他の人にフォローしてもらったり、逆にフォローしたり。医療現場と似通ったところが多いと思います。念願だった他学部の友達もたくさんでき、楽しい毎日を送っています。

TIME TABLE		月	火	水	木	金
90分講義	60分講義					
1～2 8:40-10:10(第) 8:50-10:20(第)	1 8:40-9:40			医学統計学		動物実験学
3～4 10:20-11:50(第) 10:30-12:00(第)	2 9:50-10:50 3 11:00-12:00		英語	医学情報処理 演習	生命医学 Ⅰ／Ⅱ	基礎遺伝学 生命医学 Ⅰ／Ⅱ
lunch time		ランチ				
5～6 12:40-14:10(第) 13:00-14:30(第)	4 13:00-14:00 5 14:10-15:10	物理学実験	生命医学Ⅰ／Ⅱ			
7～8 14:20-15:50(第) 14:40-16:10(第)	6 15:20-16:20 7 16:30-17:30					
after school			部活		部活	



基礎遺伝学の授業中



バレー部で活躍中



情報処理演習にて



物理学実験で分光器を操作中

医学科

小山 亮太

医学部医学科6年
群馬県立前橋高等学校 出身

医師である前に人として 学生同士で高めあえる場所



Koyama Ryota

本学は研究が盛んで、基礎、臨床ともにオープンな雰囲気があり、講義の一環で実験ができたり、「MD-PhD コース」という学部生でも研究室で研究に取り組めるコースもあつたりします。また、医療現場にでる実習も多彩で、今は臨床実習に明け暮れる毎日です。そこで多くの患者さんと会い、勉強させていただいています。特に緩和ケアの実習時に、「楽に死なせてほしい」という患者さんに対して指導医の先生が、「私たちは楽に死ぬお手伝いをしているわけではなく、楽しく生きるお手伝いをしているんですよ。」とおっしゃったことが印象に残っています。医療とはなんなのか、治すとはどういうことなのか。そこで再考えさせられました。実習を通して、教科書にのっている事はあくまでも「典型」で、すべてに当てはまるわけではないということも分かりました。だからこそ、患者さんとのコミュニケーションが大切だと痛感しました。普段の友達とのコミュニケーションとは全く質の異なるこの技術を鍛えられるのも、実習が豊富な本学の特徴ではないでしょうか。

私が医師を目指したきっかけとしては、父が医師だということもあつたのですが、国際医療協力で活躍する医師の存在を知ったことが大きかったと思います。誰かのために何かをする。シンプルなその姿に真の格好よさを感じた気がします。将来は、「診てもらって良かった」と言われるのももちろん、病気を介しての付き合いだけでなく、また話したい、また会いたいと思われるような、人間的に魅力ある医師になりたいと思っています。夢を叶えるためにも国家試験合格は必須。そのために仲間と勉強会を開いて、お互いに問題を出し合ったり、励まし合ったりして頑張っています。部活動を含め、そのようないい雰囲気を皆で作り上げているのも、本学の魅力のひとつだと思います。

TIME TABLE

	MON	TUE	WED	THU	FRI
8:00 12:00	オリエン テーション	病棟実習	外来実習	上部消化管 内視鏡実習	外来実習
lunch time	ランチ				
13:00 17:00	カンファレンス 総回診	大腸ファイバー 見学 消化器 カンファレンス	内分泌 カンファレンス 病棟症例検討会 呼吸器 カンファレンス	甲状腺エコー実習 内分泌画像診断	肝臓 カンファレンス
after school	バンド練習	自習	勉強会	軽音部部会	自習



仲間たちとともに合宿



患者さんに説明



教員の指導のもと内視鏡の実習



ライブハウスで



卒業アルバム制作委員会

保健学科
看護学専攻

村上 夏紀

医学部保健学科看護学専攻3年
長野県立伊那弥生ヶ丘高等学校 出身

新たな環境で広がる選択肢

親しみを持ってもらえる医療従事者に



Murakami Natsuki

看護師の母が患者さんと親しく接している様子を見て、憧れを抱きました。母から資格取得を勧められたこともあって看護師を志望。人の命に触れる職業だけに責任重大ですが、その分やりがいもあるに違いないと思って決めました。本学に進みたいと思ったのは、チームワーク実習に力を入れていたから。医療の現場では、患者さんを取り巻くスタッフの連携も大切ではないかと感じていましたし、自分では気づかないことも仲間との関わりから学べ、さまざまな視点で看護をとらえられそうだったからです。

入学後は、生活も学習環境も高校時代とは一転。特に学びの面で大学は、自分の姿勢が問われます。自主性が肝心。自分がアクションを起こせばとことん学べるのが大学です。本学の良いところは、魅力的な先生が多いこと。病院も併設されていて、師長さんから現場の声を直接聞けるのも貴重ですね。入学のきっかけにもなったチームワーク実習は、予想以上の面白さ。異なる専攻のメンバーが集まって、提示された課題について自分の職種では何ができるのかを話し合います。メンバーの発言を聞いてハッとすることも多く、自分の力不足を感じますが、新たな課題が明確になって次に生かれます。

看護師志望で入学しましたが、さまざまな講義を受けたり実習に行ったりしているうちに保健師にも興味が出てきました。乳幼児健診で、不安を抱えた若いお母さんが保健師と話すうちに表情が和らいでいくのを目の当たりにして、保健師の影響力の大きさを感じました。どちらにしても、親しみの持ってもらえる医療従事者になるのが目標です。

TIME TABLE

	月	火	水	木	金
1				成人看護学方法論 演習Ⅰ	災害看護学
2		医療生命倫理	国際看護学		
3	疫 学		精神看護学方法論	成人看護学方法論 演習Ⅱ	
4					
lunch time	ランチ				
5	在宅看護学方法論	地域保健医療推進論	看護管理学	看護学方法論Ⅲ	チームワーク実習
6					
7	老年看護学 方法論演習	小児看護学方法論 演習	母性看護学方法論 演習	地域看護学方法論 演習Ⅰ	
8					
9	助産学総論			地域看護学方法論 演習Ⅱ	
10					
after school			サークル	サークル	アルバイト



チームワーク実習で他専攻を交えての話し合い



講義を熱心に受ける



友人と課題を検討する



ダブルダッチサークルの練習風景



テニスサークルの合宿

保健学科
検査技術科学専攻

武井 美澪

医学部保健学科検査技術科学専攻3年
埼玉県立越谷北高等学校 出身

基本が身につき、判断力の高まりも実感 部活にバイトに、広がる世界で充実の毎日



Takei Mio

中学生くらいのころから、医療関係の仕事に就きたいと思っていました。高校時代に、ある大学のオープンキャンパスで検査をしているのを見て「面白そう」と惹きつけられました。本学を選んだのは、保健学科だけでも4つの専攻があったから。チームワーク実習で互いに交流できることに目新しさを感じました。

入学前から楽しみにしていたチームワーク実習は、今、最も好きな科目。異なる専攻のメンバーが集まってチームをつくり、みんなで課題に取り組みます。分野が違っていると見え方や考え方も異なり、思いもよらなかった発言に驚くことが多いですが、とても勉強になります。回を重ねるごとに少しずつ、一つの課題をいろいろな視点から捉えられるようになってきた気がします。

進学先こそ違うものの同じ道を目指している高校時代の友人とは、時々連絡を取り合います。今、やっていることを話すと「群大はやっていることが丁寧だね」とか「ずいぶん深いところまで学んだね」と言われます。機械化が進む検査の世界ですが、本学の授業では顕微鏡を使ってじっくり細胞を見るという基本的なことを、手を抜かずにやっています。原理からしっかり理解できるので、検査に対する判断力も高まっていると感じています。卒業後の進路は、今後、実習を経験しながら自分に合う道を見つけたいと思います。細胞や血液に関わる専門の資格も取得したいと考えています。

放課後は、部活にアルバイトにと忙しい毎日。部活に入ったことで横のつながりもでき、高校生のころとは考えられないほど世界が広がりました。充実した日々にとっても満足しています。

TIME TABLE

	月	火	水	木	金
1					
2	遺伝子検査学		臨床化学Ⅱ	保健行政論	細胞診断学Ⅰ
3	臨床生体機能学Ⅲ		臨床化学実習Ⅰ	検査管理総論	RI検査技術学
4	臨床生体機能学Ⅳ				
lunch time	ランチ		ランチ		
5			臨床生体機能学Ⅴ	病態組織細胞学	
6	病原生物学		臨床生体機能学実習		チームワーク実習
7	病原生物学実習			生体防御学実習	
8					
9					
10					
after school	アルバイト	部 活	アルバイト	アルバイト	部 活



チームワーク実習の様子



部活動の練習風景



幅広い知識を学ぶ



仲間とともに検査の手技を学ぶ



実習で教員に指導を受ける

保健学科
理学療法専攻

藤塚 朋大

医学部保健学科理学療法専攻3年
群馬県 私立樹徳高等学校 出身

本学で「学ぶ喜び」を体感

更なる資格取得で質の高い医療を提供



Fujizuka Tomohiro

理学療法士の存在を初めて知ったのは、中学生のとき。卓球の練習で痛めた靱帯を見ただけのために訪れた整形外科で、自分の靱帯がどのような状態で、どんなリハビリをすればよいのかを教えてくれたのが理学療法士さんでした。治るかどうかわからない不安でいっぱいでしたが、その方の説明で先の見通しが立ち、安心して希望を持ってリハビリに取り組むことができました。この経験が、将来の道を決めるきっかけになりました。

大学の講義はどれも興味深いものばかり。自分の関心があることで、将来のためになる講義がそろっているのが身が入ります。特に整形外科学は、この道の権威と言われる学科長による講義。教科書だけでは分からないプロが経験した症例や特徴やリハビリ方法などを教えていただけるので、現場が目に見え、とても興味が引き立てられます。本学は学習内容の質が高く、先生たちも素晴らしい方たちばかりなので「学ぶ」モチベーションが高まります。本学で「学ぶ喜び」を覚えた気がします。

将来の夢は開業をすること。今の法律だと理学療法士では開業できないので、まずは10年間、理学療法士としての経験を積んだ後に柔道整復師の資格も取得し、双方からのアプローチで質の高い医療を提供していきたいと思っています。

本専攻は1学年20人ほどと規模が小さいのが幸いして、同じ学年はもちろん先輩・後輩のつながりも強いんですね。花見やバーベキュー大会を通して、自然と仲が良くなります。サークルに入ると他学部との交流も深まります。所属している医学部卓球部は、みんなで力を合わせた結果、保健学生大会で全国優勝をしました。団結力の強さが自慢です。

TIME TABLE					
	月	火	水	木	金
1			臨床理学療法Ⅲ	整形外科Ⅱ	
2					
3	臨床運動学			神経内科Ⅱ	
4					
lunch time	ランチ		ランチ		
5			臨床理学療法Ⅰ	臨床理学療法Ⅱ	
6					
7			臨床理学療法実習Ⅰ	臨床理学療法実習Ⅱ	チームワーク実習
8					
9					
10					
after school	部活	アルバイト	アルバイト	部活	アルバイト



患者役となって仲間の実習に協力



注意を払いながら実技訓練



教員の講義を聞いて学習



チームワーク実習で他専攻の学生たちと討論



大会へ向け卓球部の仲間と練習

保健学科
作業療法学専攻

茂木 茉莉奈

医学部保健学科作業療法学専攻3年
群馬県立富岡高等学校 出身

健やかな暮らしへ、身体と心をサポート 患者さんの笑顔のために決意を新たに



Moteki Marina

中学生のころから、将来は医療の道に進みたいと思っていました。当時、私の中で浮かぶ医療関係の職業は医師と看護師だけ。そんな折、祖母が病後のリハビリを受けることになりました。付き添いをしていた叔母から「向いているんじゃない？」と言われたのが、作業療法士。初めて聞く職種でしたが、調べていくうちに興味が湧いてきました。祖母を見ていて、退院後、より良い暮らしを送るために身体と心の機能を回復させることは必要不可欠で、それにはさまざまな医療スタッフの支援が欠かせないことを実感。作業療法士の重要性も強く感じるようになりました。大好きな群馬で4年間じっくり学べることから本学を志望。両親も賛成してくれました。

講義はどれも興味深いのですが、特に「評価学実習」が実践的で面白いですね。友達同士で患者さん役と作業療法士役に分かれて取り組む面接の練習で、何気ないひと言で患者さんを傷つけてしまったり、患者さんのちょっとした表情を見過ごしたために本心をつかみ損ねたりするということが分かりました。作業療法士という仕事の難しさを感じました。病院への見学実習も経験。実際に患者さんと作業療法士との関わりを見て「講義で出てきたケースだ」ということが多く、座学は大事だと思いました。それと同時に、患者さんの笑顔のために頑張ろう、と意欲が湧いてきました。

高校時代は、今やっている勉強は将来役立つのかな、と思いましたが、大学生になった今、絶対に役立つと断言できます。数学は統計学で必要だし、国語はレポートを書くにも文献を読むにも欠かせません。何でも学んでおいて無駄なことはありません。

TIME TABLE

	月	火	水	木	金
1	日常生活活動学			整形外科学Ⅱ	
2					
3	日常生活活動学実習		老年期障害作業治療学Ⅰ	神経内科学Ⅱ	身体障害作業治療学Ⅰ
4					
lunch time	ランチ		ランチ		
5	地域作業療法学概論		総合能力評価学	精神障害作業治療学Ⅰ	
6	地域作業療法学各論				チームワーク実習
7				発達障害作業治療学Ⅰ	
8	作業療法評価学実習	作業治療学実習		精神医学Ⅲ	
9					
10					
after school	部 活	アルバイト	部活・アルバイト	部 活	部 活



チームワーク実習のグループ会議



高齢者体験中



寝返り運動の分析



先生のアドバイスを受けながら
グループ学習



合気道部で日々鍛錬

医学科

天野 出月

医学部医学科 平成19年3月卒業
大学院医学系研究科博士後期課程在籍
東京都出身



壁にどう立ち向かうか。そこに自分の資質が問われる

卒業後は3年間、研修医を経験。さまざまな症例を目の当たりにする中で湧き上がってきた疑問を明らかにしたくて、大学院に進むことにしました。今は、甲状腺について研究をしています。いつも予想通りの研究結果が出るわけではないし、今、取り組んでいる研究がすぐに臨床に役立つわけではありません。それでも続けているのは、この研究がベースとなって将来、誰かの役に立つ手伝いができるかもしれないという期待感から。それを思うとワクワクします。一緒に研究をしている仲間、先輩、先生たちと、どうしたら解決できるのか、どんな方法がいいのか、ディスカッションする楽しさもあります。本学での仲間に恵まれたことも、大きな原動力になっています。在学中から研究に興味があったので、研究室に出入りしていました。そのご縁で、先生が留学したアメリカのラボを見学する機会にも恵まれました。同じ医学の世界でありながら、国によって大切にしていることが随分違うのにはびっくりしましたが、見識が広がりました。このように貴重な体験も本学に在籍していたからできたこと、と感謝しています。

受験勉強は大変で、壁に当たることも少なくないと思います。それは、大学院の研究でも同じです。その壁にどう立ち向かで自分の資質が試されると思います。自分の目標に向かってめげるな！ 群大を目指す方たちに向けつつ、自分にも言い聞かせているんですけどね(笑)。

医学科

森岡 汐里

医学部医学科 平成23年3月卒業
群馬大学医学部附属病院勤務
高知県出身



日々前進の姿勢。相談して良かったと言われる存在に

私は引っ込み思案な性格なのですが、学生時代に軽音楽部の部長になり、部活の運営法を他の部員たちと一緒に模索したことはとても大きな経験になったと思います。初期研修中は、患者さんや同僚の話を聞いて「この人の困り事は何だろう」「どうすれば少しでも楽になるだろう」と考えるようにしていました。

以前から発達障害に興味があったので、精神科に進むことにしました。臨床実習の際に先生方の真剣に取り組む姿が印象的だったので、群馬大学医学部附属病院精神科神経科に入局しました。今は入院している患者さんの診療や単科精神病院での外来業務、児童相談所での相談業務などを行っています。どうやって話せばいい方向に繋がるだろう、この人や周りの人が少しでも安心できるだろう、と考えるのは、とても難しいのですがやりがいのあるところでもあります。

医学部に入学して、自分にこんな事ができるのかな？と心配になることが沢山ありました。けれど、最初は頭が真っ白になってしまっていてできなかったことも、上司や友人たちに教えてもらったり自分で練習したりしてだんだんできるようになりました。あきらめずに「自分にできること」「できる必要があること」について考え続ければ、他の人より歩みは遅かったとしても少しずつ前進できるのではないかと思います。

保健学科

松崎 奈々子

医学部保健学科看護学専攻
平成22年3月卒業
大学院保健学研究科博士前期課程在籍
群馬県立小児医療センター勤務 看護師
埼玉県出身



現場を知って深まる理解。患者さんたちの心に寄り添う看護を

小児医療の現場で働きたいという夢を持ちながらも、いろいろな患者さんを広く見られるようになりたいと思い、大学病院に就職。3年が過ぎ、このまま続けることが良いのかどうか考えあぐねていたとき、大学時代の恩師から「大学院という道もある」と言われ、進学を決意しました。一度、現場を経験しているせいか、講義を聞いていても現場の状況に落とし込んで考えられるので、スッと理解することができます。

今年の3月からは念願が叶って、日中は、小児医療の現場で看護師として働いています。一生懸命生きている子どもたちを見ると、何とか力になりたいと、スタッフ全員が全力で向き合っています。病院勤務の看護師としての一番の喜びは、やはり患者さんが元気になる姿を見られること。一人ひとりの症状や取り巻く環境を客観的に見ながら、子どもやご家族の心に寄り添うあたたい看護を提供していきたいと思います。臨床での経験を生かして身になる話ができると思うので、将来は教育の現場にも携わってみたいです。

看護師になってみて改めて、群大で学べたことはとても幸せだったと思います。附属病院があるので実習が近くでできるし、卒業生が多いので親しみやすい。もちろん、講義も楽しかったですよ。サークル活動を通じ、学科を超えたつながりも持てたのも、本学ならではの特権ですね。

保健学科

宮下 咲貴子

医学部保健学科検査技術科学専攻
平成22年3月卒業
公立藤岡総合病院勤務 臨床検査技師
群馬県出身



五感をフルに使う検査に感じる存在意義と責任の重さ

公立藤岡総合病院で臨床検査技師として働き始めて5年目。現在は、細菌検査室で検体を培養して症状を起こす原因と思われる菌を見極めたり、それに効く薬剤を調べたりしています。検査というと機械を使って結果を出すイメージが強いと思いますが、細菌検査は手作業が多い分野。五感をフルに使うところに自分の存在意義を感じます。検査技師が異常を見逃すと、患者さんの回復を遅らせる危険性につながるので責任は重大。分かることはすぐに報告するなど、早めの対処を心がけています。新人のころは、目の前の仕事に懸命に向かう毎日でしたが、今は検出された菌について医師から尋ねられることも多くなってきました。夢は認定資格の取得。そのために、論文を書いたり、学会発表などの経験を積んだりしたいと思っています。

時間が止まってしまえばいいのと思うほど楽しかった学生時代。もう一度戻れるとしたら、英語の勉強をもっとしておきたいですね。在学中、交換留学生としてシアトルの大学に行き、検査や実験と一緒にさせてもらったことがあります。やっていること自体は分かるのですが、言葉が分かればもっと理解も深まったのではないかと思います。群大で交換留学を体験しなければ、身を持って言葉の重要性を感じることはなかったかもしれません。貴重な経験ができる、恵まれた環境の大学で学生時代を送れたことの幸せを、社会に出て改めて噛みしめています。

保健学科

大河原 七生

医学部保健学科理学療法学専攻
平成22年3月卒業
大学院保健学研究科博士後期課程在籍
公立七日市病院勤務 理学療法士
北海道出身



活躍の場が広がる理学療法士。固い結束で国試合格

大学卒業後、大学院に進学。今は、博士課程に在籍しながら、七日市病院で理学療法士として勤務をしています。仕事をする中で湧き上がってきた疑問を大学で研究をしながら明らかにできるのは、社会人でもあり大学院生でもあるメリットだと思います。やりがいは、患者さんが回復する様子を、チームで共有できること。以前、若くして脳卒中で来院された方が、当初は気持ちも落ち込んでいたのですが、医療チームでフォローして良くなって退院されました。その後、オシャレをして病院に顔を見せてくれたときは本当にうれしく、この仕事について良かったと思いました。それと同時に、理学療法士は患者さんの心の支えにもなる豊かな人間性が求められている、と感じ、身が引き締まる思いがしました。大学では、脳卒中に関するバランス感覚に関する研究をしています。本学と現場で学んだ知識と技術を生かして、新たな人材育成をしたいと思っています。

理学療法士の活躍の場はどんどん広がっています。対象は子どもから高齢者まで、フィールドはスポーツ、介護、生活習慣病の予防、ロボット開発やインナーウェア開発と留まるところを知りません。今後、益々活躍の場を広げている魅力的な職種です。特に本学なら学生同士の仲が良く、みんなで励ましながら勉強をするので、私たちの代は全員国家試験に合格しましたよ。

保健学科

満山 兼一郎

医学部保健学科作業療法学専攻
平成22年3月卒業
群馬県立心臓血管センター勤務 作業療法士
佐賀県出身



公式通りにいかない難しさを感じる奥深さとやりがい

県立心臓血管センターで、循環器疾患を持った患者さんがスムーズに家に帰れるよう、再発を防げるよう、体と心の両面からサポートしています。循環器疾患に対して専門的な医療を提供する施設で作業療法士がいるのは稀。しかも、10年以上前からこのような体制を敷いているのは全国的にも大変に珍しいと思います。その分、学ぶことがたくさんあります。

今年で勤務歴5年。勤め始めのころと比べると、リスク管理に目が届くようになりました。また、それをリハビリに生かせるようにもなりました。患者さんから「ありがとう」と言ってもらえる機会も増えました。仕事をする中で感じるのは、患者さんの気持ちが一番大事だということ。周りがどうお膳立てをしても、患者さんの中に「こうなりたい」という気持ちが生まれない限りゴールにはなかなか近づきません。気持ちを引き出すのも作業療法士の重要な役目。そのためには、患者さんの体の状態だけでなく、背景にあるものや、心の在り方にも目を向ける必要があります。公式通りにいかないところに作業療法士の奥深さと、やりがいの大きさを感じます。

今は、この仕事に就けて良かったと充実感に溢れる毎日ですが、学生時代は仕事のイメージがつかめず、悩んだ時期がありました。そんなとき、自分の職業に本気で取り組む先生の姿に触れたことが歩を進めるきっかけになりました。魅力的な先生が多いことも群大の魅力です。

CLUB & COMMITTEE

Campus Life

クラブ・コミッティー



医学部卓球部

群馬大学医学部卓球部です！経験者・初心者問わず部員一丸となって練習しています！！是非見学にきてね～～！！

<http://gunmedttc.web.fc2.com/>



医学部バドミントン部

部員数74名、男女・保健学科合同で医学部最大の部活です。火・金の週2回の練習だけでなく、部活外でも仲良く活動しています！初心者も経験者も大歓迎です！

<http://gunmedbad2010.web.fc2.com/>



COMMITTEE 学友会

学友会は、医学科及び保健学科の全学生により構成される組織です。年に2回「教職員との懇談会」を開催し、大学生活をより良いものとしていくため、大学施設に関すること、授業・カリキュラムに関すること等について意見交換を行っています。その他、新入生への学生生活に関するアドバイス、部活・サークルのとりまとめ等も行っています。



医学部軽音楽部

医学部軽音楽部は邦楽、洋楽、インスト、ハードロック、メロコア、オリジナル等ジャンル問わず様々な音楽を楽しむ部活です。

月1回程度のライブを行っています。楽器をこれから始める人も、経験者も大歓迎です！！



医学部★ダンスサークル (M★DC)

医学部生が部員のダンスサークルです。
地域のイベントや学園祭で踊ってます。
一緒にステージの楽しさをあじわいませんか♪
Twitter @Mdcsuw



AAA☆Kids

私達AAA☆Kidsは、小児喘息・アレルギーキャンプ等を企画運営するサークルです。イベントを通して参加者全員のきらきらスマイルを作り、自立に向けて支援していけるようにスタッフ一同、力を合わせて活動しています！

スポーツから芸術、ボランティア、医学部ならではのサークルまでバラエティに富んでいます。

昭和キャンパス サークル

※その他、荒牧キャンパスにも多彩なサークル活動があります。

■ **運動部** 合気道部 / Et's (バスケットボール) / El Bolos (ボウリング) / 医学部弓道部 / 保健学科弓道部 / Get's (サッカー) / 医学部剣道部 / 医学部硬式テニス部 / 医学部ゴルフ部 / 医学部サイクリング部 / 医学部サッカー部 / 医学部準硬式野球部 / 杖道部 / 医学部スキー部 / 医学部ソフトテニス部 / 医学部卓球部 / 医学部バスケットボール部 / 医学部バドミントン部 / 医学部バレーボール部 / 保健バレーボール部 / Vit'z (ダブルダッチ) / 医学部ラグビー部 / 医学部陸上部 / Let's Met's (軟式野球, ソフトボール) / ワンダーフォーゲル部

■ **文化部** 囲碁将棋部 / 映画研究会 / eogg (自主ゼミ) / エレクトーン部 / 折紙研究会 "Origin" / Guit's (アコースティックギター) / 医学部軽音楽部 / 国際医療ボランティアの会 (FORS) / 医学部写真部 / 医学部★ダンスサークル (M★DC) / 天文部 / 東洋医学研究会 / ド学連 (MD-PhDコース学生勉強会) / AAA☆Kids / ピアノ部 / Pico (合唱) / 美術愛好会 / ビリヤード部 / Fore-Bridge Orchestra / Flow Orchestra & Chorus / Voice Cream (アカペラ) / 医学部モダンジャズ研究会 / 野草を食べる会 / 夢のわたらせなないろ号 (ボランティア) / LEADS (ボランティア) / √Root (イベント企画運営) / YMCAクラブ (ボランティア)

① 群馬大学総合情報メディアセンター図書館部門 医学図書館



医学図書館は、医学部分館、医療技術短期大学部図書室、内分泌研究所図書室を統合し、平成6年1月に開館しました。蔵書数は内外の医学・医療専門書14万冊を数えます。



新着学術雑誌室(外国雑誌)

国内外のおよそ3500タイトルの学術雑誌を所蔵し、7000タイトル以上の電子ジャーナルを利用できます。



目録・情報検索室

PubMed、医中誌 Web などの医学文献データベースを利用し、国内外の医学情報を検索できます。また、OPAC(図書館所蔵目録データベース)を利用し、館内の所蔵情報を調べることができます。



閲覧室

閉館後も24時間利用できるサービスを提供しています。いつでも必要なときに資料を見ることができます。閲覧席は250席余となっています。



ライブラリー「患者さんのこころ」

「良医養成のための体験的・実践的専門前教育」を支援するため、開病記・介護記・ホスピス・医療事故・医療倫理関連図書を取書しています。

② 生体調節研究所



ホルモンをはじめとする生体調節系の制御機構解明を目指す研究所です。その異常による疾患、特に糖尿病、動脈硬化などの生活習慣病の病態の解明を目指しています。



研究室

「生体調節シグナルの統合的研究」のテーマで「文部科学省グローバルCOEプログラム・生命科学分野」において研究拠点として選出され、医学系研究科大学院とともに研究を推進しています。

③ 重粒子線医学センター



重粒子線によるがん治療を行っています。

④ 生体情報ゲノムリソースセンター



遺伝子工学の中心である組換えDNAの実験・研究技術の普及と、専門研究者の教育・養成などを行う学内共同利用施設です。



⑤ 刀城会館



医学部同窓会(刀城クラブ)の募金により建設された多目的施設です。緑にかこまれたキャンパスの南西にあり、学会、講演会、研修会、セミナー、入学・卒業行事などに利用されています。

⑥ RI研究棟



放射性同位元素を利用して、ごく微量の血清中ホルモンを測定するラジオイムノアッセイ法などを行う施設です。

⑦ 医学科・大学院医学系研究科



基礎医学棟

解剖学、病理学、法医学など、基礎医学の研究・教育を担当する教員の研究室があり、医学の基礎研究が行われています。隣接して基礎医学を学ぶ教室や実習室があります。



臨床研究棟

内科学、外科学などをはじめとする臨床医学を担当する教員の研究室があります。附属病院での診療と並行して臨床分野での研究が行われています。

⑧ 保健学科



保健学科中央棟・西棟

理学・作業療法学専攻の施設・教員研究室、大講義室などが配置されています。



保健学科・新棟

看護学専攻の施設・教員研究室が配置されています。また、ミレニアムホール、中講義室・大学院講義室などが配置されています。



共用施設棟

検査技術科学専攻の施設・教員研究室、医療基礎学の教員研究室、一部理学療法学専攻の施設及び教員研究室、さらに事務部が配置されています。また、医学科関連の施設も配置されています。



ミレニアムホール

21世紀のスタートに合わせて建設されたことから、有為な医療人を輩出する意義を込めて命名されました。講義・セミナー・講演などに使われています。



臨床生体機能実習室

専門科目分野の一つである、エコー、肺気量測定装置、心電計など画像診断学分野の実習が行われます。



⑨ 生協



カフェテリア

一日の大半を大学キャンパスで過ごす学生生活。不規則になりがちな食生活から寛ぎの時間も生協がバックアップ。



食堂

何と言っても「安い」「美味しい」「早い」が生協食堂のセールスポイント。もちろん栄養計算はばっちり。



購買部

日常雑貨、文房具、そして専門書まで購買部には何かとお世話になります。

⑩ 黒梅ホール



黒梅恭芳群馬大学名誉教授の名を冠した黒梅ホールは、医学科学生の学習環境を整備するために平成25年2月に新設されました。主に6年生の自習室として利用されています。

⑪ ゆめのご保育園



一般幼児と病児が対象で、本学教職員の利用を主としています。

⑫ 石井ホール



石井英男群馬大学名誉教授の名を冠した石井ホールは、医学部キャンパス内の質の高い交流・学習空間の集合体として計画され、コミュニケーション、学習、リラクゼーションの場となっています。

⑬ 群馬大学医学部附属病院



群馬大学医学部附属病院は、「患者さん中心の医療を推進する」という基本理念の基に、医療を受けられる皆様の権利を尊重しながら、最高最良の医療を提供することを目指しています。



受付ロビー

毎日多くの患者さんが病院には訪れます。受付から診療、薬剤処方、精算まで一連の医療活動を合理的なシステムが支えています。



薬剤耐性菌実験施設

本邦で唯一の薬剤耐性菌に関する専門的研究施設です。社会的に大きな問題になっている細菌が薬剤に対して耐性を獲得するしくみを遺伝学的、分子生物学的に研究しています。



プロジェクト棟

大学外組織との共同研究をはじめとする様々な医学領域の研究プロジェクトを行う建物です。



実習棟顕微鏡実習室

実習棟では、顕微鏡を使った実習などをはじめとする基礎医学の様々な実習が、最新の設備を使って行われています。



診療室

病気との闘いは患者さんと医療従事者との共同活動です。徹底したインフォームドコンセントに基づいて計画的な医療を進めています。



手術室

不幸にも外科的な処置が必要になる患者さんも数多くいます。附属病院で最新の技術と機器を駆使し多くの実績を築いてきました。

ARAMAKI

Campus Scene

荒牧キャンパス

教養人としてレベルアップしながら、
のびのびとしたキャンパスライフを。



SHOWA

Campus Scene

昭和キャンパス

充実の設備が揃うキャンパス。
それは明日の医学を担うあなたのためのステージ。



群馬大学の入学者受入方針

群馬大学のモットーは「Act Locally, Think Globally（地域に根ざし、地球規模で考える）」です。この理念に共感し、次のような能力と意欲を持つ学生を求めています。

1. 大学において、教養と専門知識を習得するために必要な基礎学力とコミュニケーション能力を持つ人
2. 主体的に学ぶ姿勢と、論理的で柔軟な思考能力を持つ人
3. 知的好奇心が旺盛で、新しい課題に積極的に取り組む人
4. 高い志と豊かな発想力を持ち、未来を切り開く夢と情熱を持つ人
5. 地域社会や国際社会に貢献する意欲とリーダーシップを持つ人

Medical Sciences

医学科教育ポリシー

■ 入学者受入方針(アドミッション・ポリシー)

—このような人を求めています—

- (1) 医師としての資質、特に医師としてふさわしい人格と倫理性、コミュニケーション能力、人間に対する豊かな感受性と奉仕の精神を備えている人
- (2) 医学部の教育内容を理解するために必要な総合的基礎学力を十分に備えている人
- (3) 医学研究、医学教育、医療行政、社会貢献活動を指向する人
- (4) 地域医療に貢献することへの志と強い信念を持っている人

■ 教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)

—このような教育を行います—

- (1) 生命の尊厳・人間性の尊重に基づく高い倫理観の確立
- (2) 基礎医学から臨床医学にわたる基本的知識と科学的探究能力の修得
- (3) 問題解決能力の向上と自己学習習慣の体得をはかり、医師、医学研究者、医学教育者、医療行政担当者としての基礎を築く

■ 学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

—このような人材を育てます—

所定の年限在学し、かつ所定の単位を修得した、次のような者に学士の学位を授与します。

- (1) 高い倫理観をもち、患者中心の医療を実践し、医療チームのスタッフから信頼される医師
- (2) 広い医学知識と高い臨床能力をもち、進歩する医学知識・医療技術を、生涯にわたり獲得し続けることのできる医師
- (3) 高度な研究を推進し、その成果を社会に還元できる基礎医学・臨床医学・社会医学の研究者、教育者
- (4) 広い視野をもち、医療政策の立案・実施に携わる医療行政担当者



Health Sciences

保健学科教育ポリシー

■ 入学者受入方針(アドミッション・ポリシー)

—このような人を求めています—

- (1) 本学科での学習を通して科学的な思考力と幅広い知識を培い、豊かな見識を身に付け、人間の尊厳を尊重できる人
- (2) 柔軟な発想、みずみずしい感性、高い意欲を持つ人
- (3) 看護師・保健師・助産師、臨床検査技師、理学療法士、作業療法士となることを通じて、高度化・専門化する保健医療の担い手となることを望む人
- (4) 医療技術の学問の進歩に関心を有し、その学習や発展に向けた熱意と行動力を持つ人
- (5) チーム医療等の保健医療の現場において、多くの人々とコミュニケーションが取れる人
- (6) 国内外の場において多様な人々とともに学び助け合い、地域や国際社会で活動できる人

■ 教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)

—このような教育を行います—

- (1) 全人的医療の担い手としての人間性の涵養と、専攻分野で必要な基礎力の育成を図る。
- (2) 専門教育では国家試験に対応するとともに、先端の保健医療の学習にも配慮する。
- (3) 保健医療の担い手としての主体的思考・行動力と豊かな感性を持つ人材育成を図る。
- (4) チーム医療の担い手としての意識と、そこで必要な能力の育成を図る。
- (5) グローバル化した保健医療の諸課題に対応できる国際的視野を持つ人材育成を図る。

■ 学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

—このような人材を育てます—

所定の年限在学し、かつ所定の単位を修得した、次のような者に学士の学位を授与します。

- (1) 専攻分野の国家試験に合格できる知識と技術を備え、人間の尊厳を尊ぶ心を持つ者
- (2) 保健医療の諸課題に対し、多面的視点からの柔軟な思考、的確な判断と対応ができる者
- (3) チーム医療を担う自覚を有し、関係する人々との相互理解と円滑な協働関係が築ける者
- (4) 保健医療の担い手として、将来に向け自らを向上させてゆく意欲と自己開発力を持つ者

Q 勉学環境で知りたいことは

チューター制度とはどのようなものですか？

A 【医】【保】：群馬大学医学部では、入学と同時に学生一人ひとりに対して指導教員(チューター)を割り当てています。生活上での相談、学業や進路などの相談はもとより、学問への志や医療人としての心構えなど自由に聞くことができます。

男子学生と女子学生の割合はどの程度でしょうか？

A 【医】【保】：学年によって多少の違いはありますが、医学科は男女比7：3、保健学科看護学専攻は1：9、検査技術科学専攻は2：8、理学療法学専攻は5：5、作業療法学専攻は2：8です。

入学料・授業料免除、奨学金制度について教えてください。

A 【医】【保】：学業成績が優秀であり、経済的な理由で学業の継続が困難な学生のために、一定の基準を満たしている場合、入学料・授業料免除制度があります。また、日本学生支援機構等の奨学金を取り扱っています。詳細は、群馬大学ホームページの「受験生のみなさまへ」(<http://www.gunma-u.ac.jp/>)をご覧ください。

サークルやアルバイトと学業の両立はできますか？

A 【医】【保】：所属するサークルやアルバイトの職種等によってかなり左右されると思われますが、きちんとした自己管理と計画性を持っていれば、学業と両立させることは大抵の場合可能だと思われます。現在、多くの先輩がサークルやアルバイトと学業を両立させて医学部で学んでいます。

実家が遠いため1人暮らしをすることになるのですが。

A 【医】【保】：1人暮らしをしている学生の大半は昭和キャンパス周辺にアパートを借りています。群馬大学生生活協同組合(<http://www.univcoop.jp/gundai/>)で紹介している物件をご覧いただくと様子が分かりますが、都心に比べると家賃は安めです。キャンパス周辺にはスーパーや飲食店が多く、生活を送るうえで非常に便利な環境といえます。

研修施設はありますか？

A 【医】【保】：群馬のリゾート地として知られる北軽井沢と草津にあります。「北軽井沢研修所」は、元京都大学名誉教授 田辺元氏から寄贈された別荘を、5月上旬から10月中旬まで開所。「草津セミナーハウス」は、関東甲信越地区の国立大学が共同利用する合宿研修施設です。



北軽井沢研修所



草津セミナーハウス

Q 将来を見据えた注目の資格について

保健師コースについて教えてください。

A 【保】：保健師は、地域保健(行政)、産業保健(企業)等の場において、乳幼児期から高齢期までのすべての人々を対象に、健康教育や健康相談等の保健指導の実施、健康づくりを推進する環境整備等を通じて、人々の健康の保持・増進を支援する活動を担う国家資格です。

看護学専攻にこのコースがあり、本コース希望者は、3年次からコース選択に必要な科目を履修することが必要で、さらに3年次終了時に所定の科目の成績及び選考試験の成績を評価して、コース履修者(40名)を選抜します。コース履修者は、4年次にさらに保健師国家試験受験資格に必要なカリキュラムを履修します。

助産師コースについて教えてください。

A 【保】：助産師は、女性の妊娠、出産、産褥の各期を通じて、サポート、ケア及び助言を行い、助産師の責任において出産を円滑に進め、新生児及び乳児のケアを提供するために、女性とパートナーシップを持って活動していく国家資格です。

看護学専攻にこのコースがあり、3年次終了時に所定の科目の成績及び選考試験の成績を評価して、コース履修者(8名)を選抜します。コース履修者は、4年次にさらに助産師国家試験受験資格に必要なカリキュラムを履修します。

※保健師コースと助産師コースの双方を履修することはできません。また、編入学生は、保健師・助産師コースを履修することはできません。

養護教諭の免許が取得できるそうですが。

A 【保】：保健師国家資格に合格すると、免許法に定める所定の単位を大学で修得している場合には、申請するだけで養護教諭(2種)を取得することができます。詳細は、群馬県教育委員会「教育免許状取得の手引」等でご確認ください。

細胞検査士コースについて教えてください。

A 【保】：細胞検査士は、人の身体の組織の一部を顕微鏡下で観察して、それが正常な組織なのか、あるいは悪性腫瘍組織なのかなどを調べます。この資格は、国家試験ではなく、学会の認定試験に合格すると得られます。その認定試験の受験資格を得られるコースが設置されているのは、国立大学法人では群馬大学、弘前大学、山口大学の3校だけです。

検査技術科学専攻にこのコースがあり、3年次になってから選択することができますが、人数枠(毎年5名程度)があるため、履修者は選抜試験で決めます。

Q その他

理学療法士と作業療法士の違いが分かりにくいのですが。

A 【保】：理学療法士とは、治療体操や運動、マッサージ・電気刺激・温熱などの物理的手段を用いて、運動機能の回復を目的とした治療を行う人のことです。病気やケガにより、日常生活に支障を来した方々に対して、起き上がり、立ち上がり、歩行などの基本的な動作能力の回復を図る、身体的なリハビリテーションに携わります。理学療法の対象となる方は、プロスポーツ選手から高齢者の方と幅広く、多方面での活躍が期待されます。

作業療法士とは、農耕・畜産・園芸・手芸・木工などの作業活動を行うことにより、応用的動作能力や精神心理機能の改善を目的とする治療を行う人のことです。身体または精神に障害のある方に、手工芸、絵画、音楽、生活動作訓練などの作業療法を用いて、自立や社会復帰を手助けします。最近では、音楽療法士や園芸療法士などの民間資格が誕生するほど、作業療法士関連の社会ニーズは上昇しています。

Q 先輩たちの進路は？

国家試験の合格状況を教えてください。

A **【医】【保】**：過去3年間の合格状況は以下のとおりです。



■ 医師国家試験合格率推移

	群馬大学 (%)	全国 (%)
H26	89.1	90.6
H25	90.8	89.8
H24	87.1	90.2

■ 医師国家試験受験者数と合格者数推移

	受験者数	合格者数
H26	110	98
H25	109	99
H24	116	101



	保健師 (%)		助産師 (%)		看護師 (%)		臨床検査技師 (%)		理学療法士 (%)		作業療法士 (%)	
	群馬大学	全国	群馬大学	全国	群馬大学	全国	群馬大学	全国	群馬大学	全国	群馬大学	全国
H26	95.4	86.5	100.0	96.9	98.8	89.6	95.5	81.2	79.2	83.7	95.2	86.6
H25	98.8	96.0	100.0	98.1	98.7	88.8	85.4	77.2	100.0	88.7	90.5	77.3
H24	96.9	86.0	100.0	95.0	97.7	90.1	95.2	75.4	95.0	82.4	100.0	79.7

卒業後の進路について教えてください。

A **【医】**：医師国家試験に合格した人は、卒業後の2年間は大学病院や教育指定病院で臨床研修医として専門に偏らずに幅広く研修し、その後、大学病院、一般市中病院、診療所、各種医療センターなどで専門領域のトレーニングを受けます。

なお、群馬大学の研修医になると、大学病院と市中病院を利用し、それぞれの長所を十分に生かし、各人の希望に沿った研修が可能です。また、大学病院では2年間の初期臨床研修修了後は、シニアレジデント制度を設けており、初期・後期研修の連続性を考慮した研修システムを構築しています。

A **【保】**：保健学科卒業後、多くの学生は下記のように県内外の医療関連施設等で第一線の専門職として働いています。

● 卒業後の進路〈平成25年度〉

■ 看護学専攻

[進路概要]卒業生85名



【就職先】群馬大学医学部附属病院、上尾中央総合病院、足利赤十字病院、伊勢崎市民病院、上田市、上野村、行田総合病院、行徳総合病院、群馬県、群馬中央総合病院、慶應義塾大学病院、国立がん研究センター中央病院、国立国際医療研究センター病院、済生会前橋病院、済生会横浜市南部病院、佐久総合病院、自治医科大学附属病院、下野市、榛東村、駿河台日本大学病院、高崎市、筑波メディカルセンター病院、東京慈恵会医科大学葛飾医療センター、東京慈恵会医科大学附属病院、東京大学医学部附属病院、東京都健康長寿医療センター、利根中央病院、虎の門病院、長野県立こども病院、長野市民病院、名古屋第一赤十字病院、新潟県、新潟大学医学部附属病院、兵庫医科大学病院、藤岡市、文京区、前橋市、前橋赤十字病院

■ 理学療法学専攻

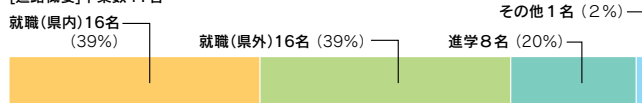
[進路概要]卒業生23名



【就職先】上尾中央医科グループ、茨城西南医療センター病院、内田病院、上牧温泉病院、群馬整肢療護園、群馬中央総合病院、すずかけヘルスケアホスピタル、高島平中央総合病院、東北大学病院、南砺市民病院、新潟臨港病院、(株)日本介護福祉グループ、東前橋整形外科、日高会、本多病院、前橋協立病院、美原記念病院、老年病研究所附属病院

■ 検査技術科学専攻

[進路概要]卒業生41名



【就職先】群馬大学医学部附属病院、(株)アルプ、伊勢崎市、太田記念病院、関東脳神経外科病院、行田総合病院、京野アーククリニック、黒沢病院附属ヘルスパーククリニック、群馬県健康づくり財団、群馬県立小児医療センター、国際医療福祉大学病院、済生会前橋病院、(株)総合臨床サイエンス、高崎中央病院、角田病院、帝京大学医学部、戸田中央医科グループ、獨協医科大学病院、日本医科大学付属病院、本庄総合病院、真木病院、松江市立病院、南多摩病院、横田マタニティホスピタル、(株)和漢薬研究所

■ 作業療法学専攻

[進路概要]卒業生20名



【就職先】愛広会、足利赤十字病院、今村病院分院、宇都宮リハビリテーション病院、大宮共立病院、可知病院、群馬県立小児医療センター、山王リハビリ・クリニック、総合青山病院、中央群馬脳神経外科病院、角田病院、鶴見西井病院、前橋協立病院、明生リハビリテーション病院、(株)メディカルレビュー社、老年病研究所附属病院

■ 受験準備・入学試験

Q.過去問題の入手方法は？

▶ 医学科・保健学科とも過去2年分(※一部の試験については過去1年分)の試験問題を公開しています。

請求方法等、詳細については、

- ・ 医 学 科：医学科ホームページ(<http://www.med.gunma-u.ac.jp/>)
- ・ 保健学科：保健学科ホームページ(<http://www.health.gunma-u.ac.jp/>)
をご確認ください。

Q.キャンパス見学は？

▶ 土日・祝祭日以外は原則的に見学可能ですが、必ず事前に学務課入学試験係へ電話等でご確認ください。見学する場合は、学務課入学試験係へお越しください。資料のお渡しや、ご質問にお答えします。

なお、例年実施しているオープンキャンパスに参加していただくと、本学教員や在学生の話を聞くことができます。

● 群馬大学オープンキャンパス

開催日：平成26年8月2日(土) 医学部(医学科・保健学科)、理工学部
8月3日(日) 教育学部、社会情報学部

会 場：荒牧キャンパス

● 医学科オープンキャンパス

開催日：平成26年7月29日(火)

会 場：昭和キャンパス

● 保健学科オープンキャンパス

開催日：平成26年8月8日(金)

会 場：昭和キャンパス

※詳細については、群馬大学ホームページ(<http://www.gunma-u.ac.jp/>)をご確認ください。

Q.授業見学の申込み方法は？

▶ 医学部保健学科では、高校生が自分の将来を考え、進路決定の際の参考のために、年間を通じて授業・実習の一部を見学できる制度があります。見学を希望する方は、授業見学申込書を学務課入学試験係まで送付してください。授業科目一覧、授業見学申込書は下記のURLからダウンロード可能です。

(<http://www.health.gunma-u.ac.jp/admissions/med/inspection.html>)

● キャンパス・授業見学連絡先

群馬大学昭和地区事務部学務課入学試験係

〒371-8511 前橋市昭和町3-39-22

TEL：027-220-8910 (医学科) 027-220-8909 (保健学科)

Q.出願するにあたり年齢制限はありますか？

▶ 医学科・保健学科とも年齢制限はありません。いずれの入学試験においても年齢はもちろん、性別、出身地、出身学校等の区別なく、全く同じ条件のもとで選抜を行っています。

Q.募集要項の発表時期はいつですか？

募集要項の種類	発表時期(予定)	備 考
学生募集要項(一般入試)	9月下旬	入学願書付
推薦入試学生募集要項		入学願書付
帰国生・社会人入試学生募集要項		入学願書付
私費外国人留学生入試学生募集要項		ホームページのみ

請求・照会先 群馬大学学務部学生受入課入学試験係

〒371-8510 前橋市荒牧町4-2

TEL：027-220-7150

■ 学生生活

Q.学生生活支援は？

▶【学生教育研究災害傷害保険】

学生が正課中、学校主催行事中、学内での休憩中または課外活動中において、不慮の災害事故により傷害を受けた場合の補償救済制度です。

▶【生活協同組合】

学生及び教職員の大多数が組合員となって組織・運営されている生活協同組合があります。書籍・日常生活用品を取り扱う購買部や、食堂、喫茶などを運営しています。また、下宿・アパートについて学生生活に適した部屋を紹介しています。

▶【学生寮】

本学には、前橋地区に養心寮(収容人員：男子74名・女子62名、全室個室)があります。経費は、寄宿料が月額4,300円で、他に自治会費(3,000円/半期)、光熱水費(約6,000円/月)の実費が必要です。

▶【国際学生交換交流】

医学部同窓会からの援助により、毎年3～4名の学生を、姉妹校提携しているインドネシア共和国バジャジャラン大学、タイ国立チェンマイ大学と相互に訪問するプログラムがあります。

姉妹校の提携は、この他にアメリカ合衆国のシアトルパシフィック大学、ワシントン大学、ニカラグアの国立自治大学マナグア校、中国の大連医科大学、南開大学生命科学学院、カナダのオタワ大学、モンゴルのモンゴル国立健康科学大学と行っています。

■ 学費・入学科・その他必要経費など(予定)

Q.学費は？

▶ 入学時及び在学中に授業料の改定が行われた場合は、新授業料を適用します。毎年2期(前期：4月、後期：10月)に分けて徴収します。

入 学 料	282,000円
授 業 料	535,800円(年額)

Q.その他必要経費は？

▶ 医学科

入学時に必要な経費(予定)	刀城クラブ・同窓会終身会費	170,000円
	後援会費(共用試験等受験料を含む)	100,000円(90,000円)
	学生教育研究災害傷害保険料	4,800円(4,130円)
	学研災付帯賠償責任保険料	3,000円(2,500円)
	医療費補助会費	12,000円
	荒牧クラブ・サークル協議会費	4,000円
	学友会費	9,500円(8,000円)
	テキスト代など	年間約150,000円程度

▶ 保健学科

入学時に必要な経費(予定)	同窓会終身会費	40,000円
	後援会費	40,000円(20,000円)
	学生教育研究災害傷害保険料	3,370円(1,790円)
	学研災付帯賠償責任保険料	2,000円(1,000円)
	荒牧クラブ・サークル協議会費	4,000円
	学友会費	4,000円(2,000円)

看護・検査技術科学専攻では一部の実習が学外で行われ、旅費の負担が必要です。
理学・作業療法専攻では臨床実習の大半が学外施設で行われ、旅費や場合により宿泊費等の費用が必要となります。

テキスト代など	年間 50,000～70,000円程度(専攻による)
---------	----------------------------

※かつこの金額は、編入学した場合

▶【予防接種】

医学部学生は、入学後、患者さん及び本人の感染防止のため、風疹・麻疹・流行性耳下腺炎・水痘・B型肝炎・結核等の抗体確認検査を実施し、陰性の項目については該当ワクチンを接種します。(検査及びワクチン接種費用は自費)

入学選抜

平成27年度医学部募集人員(予定)

		特別入試			一般入試		計
		推薦	帰国生	社会人	前期日程	後期日程	
医 学 科		35	—	—	73	—	108
保 健 学 科	看護学専攻	30	若干名	若干名	33	17	80
	検査技術科学専攻	9			22	9	40
	理学療法学専攻	8			8	4	20
	作業療法学専攻	8			8	4	20
	小 計	55	若干名	若干名	71	34	160
計		90	若干名	若干名	144	34	268

※医学部医学科の推薦入試の募集人員35名には地域医療枠7名程度、前期日程の募集人員73名には地域医療枠9名程度を含みます。

選抜方法

		特別入試			一般入試	
		推薦	帰国生	社会人	私費外国人留学生	前期日程 後期日程
医 学 科		●面接 ●小論文 ●出願書類 (調査書・推薦書・適性資質調査書等)	—	—	●日本留学試験 ●学力検査(数学・理科) ●面接 ●小論文 ●出願書類	●大学入試センター試験 ●学力検査(数学・理科) ●面接 ●小論文 ●調査書等
保 健 学 科		●面接 ●小論文Ⅰ(英語による出題) 小論文Ⅱ(文系の出題) 小論文Ⅲ(理系の出題) ●出願書類 (調査書・推薦書)	●面接 ●小論文Ⅰ(英語による出題) 小論文Ⅱ(文系の出題) 小論文Ⅲ(理系の出題) ●出願書類	●面接 ●小論文Ⅰ(英語による出題) 小論文Ⅱ(文系の出題) 小論文Ⅲ(理系の出題) ●出願書類	●日本留学試験 ●面接 ●小論文Ⅰ・小論文Ⅱ ●出願書類	●大学入試センター試験 ●小論文Ⅰ・小論文Ⅱ ●調査書

※医学部医学科では、前期日程については志願者が約3倍を超えた場合にのみ2段階選抜を実施します。

※医学部保健学科(前期日程・後期日程)について、理学療法学専攻及び作業療法学専攻のどちらにも進学意欲を持つ志願者は、出願の際に第2志望専攻を指定できます。

平成26年度入学選抜実施状況

医学科

	推薦	前期日程	後期日程	私費外国人留学生
募 集 人 員	35	73	—	若干名
志 願 者 数	153	284(219)	—	0
受 験 者 数	153	207	—	0
合 格 者 数	35	73	—	0
入 学 者 数	35	73	—	0

※志願者数の()は、第1段階(第1次)選抜合格者数で、内数とする。

医学科第2年次編入学

	第2年次編入学
募 集 人 員	15
志 願 者 数	296
第1次試験合格者	60
第2次試験合格者	15
入 学 者 数	15

※医学部医学科では、編入学の入学年次を、平成21年度の入学選抜から第2年次へ変更しました。

保健学科

	看護学専攻						検査技術科学専攻						理学療法学専攻						作業療法学専攻					
	推 薦	帰 国 生	社 会 人	前 期 日 程	後 期 日 程	私 費 外 国 人 留 学 生	推 薦	帰 国 生	社 会 人	前 期 日 程	後 期 日 程	私 費 外 国 人 留 学 生	推 薦	帰 国 生	社 会 人	前 期 日 程	後 期 日 程	私 費 外 国 人 留 学 生	推 薦	帰 国 生	社 会 人	前 期 日 程	後 期 日 程	私 費 外 国 人 留 学 生
募 集 人 員	30	若干名	若干名	33	17	若干名	9	若干名	若干名	22	9	若干名	8	若干名	若干名	8	4	若干名	8	若干名	若干名	8	4	若干名
志 願 者 数	85	1	2	108	197	1	51	0	0	48	87	0	57	0	1	21	37	0	26	1	1	13	31	1
受 験 者 数	85	1	2	98	84	1	51	0	0	45	34	0	57	0	1	19	17	0	26	1	1	13	17	0
合 格 者 数	31	0	0	38	21	0	11	0	0	23	13	0	9	0	0	8	5	0	10	1	0	8	4	0
入 学 者 数	31	0	0	33	16	0	11	0	0	21	8	0	9	0	0	7	5	0	10	0	0	8	4	0

保健学科第3年次編入学

	看護学専攻	検査技術科学専攻	理学療法学専攻	作業療法学専攻
募 集 人 員	10			
志 願 者 数	5	10	0	0
受 験 者 数	4	10	0	0
合 格 者 数	2	8	0	0
入 学 者 数	2	4	0	0



群馬大学医学部(医学科・保健学科)
群馬大学大学院医学系研究科
群馬大学大学院保健学研究科

(医 学)〒371-8511

(保健学)〒371-8514

群馬県前橋市昭和町三丁目39番22号

TEL.027-220-7111(代)

(医 学)<http://www.med.gunma-u.ac.jp/>

(保健学)<http://www.health.gunma-u.ac.jp/>

■入学案内に関するお問い合わせ

TEL.027-220-8908・8909・8910

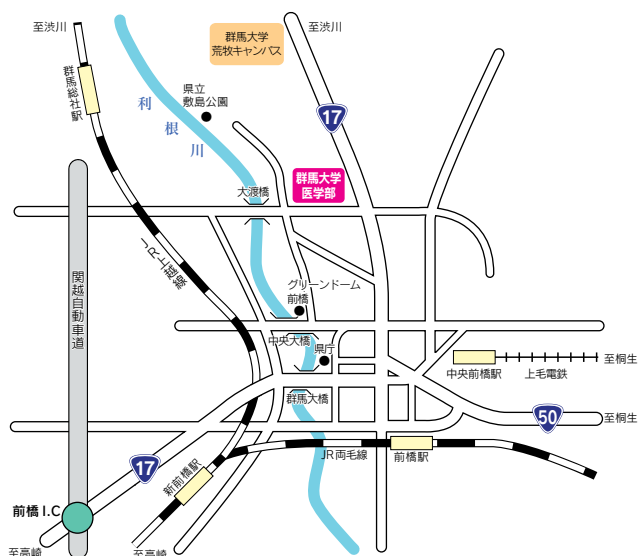
LINE、Twitterでも群馬大学の入試情報等を配信中！



http://lineat.jp/gunma_uni_ad



http://twitter.com/gunma_uni_ad



- [前橋駅から] 渋川駅(小児医療センター)行きバス乗車→群大病院入口下車 約13分 徒歩6分
- [前橋駅から] 群大病院行きバス乗車→群大病院下車 約15分
- [新前橋駅から] 総合スポーツセンター行き乗車→群大病院下車 約21分
- [渋川駅から] 前橋駅行きバス乗車→群大病院入口下車 約30分 徒歩6分